

令和6年度 幼保小連絡懇談会資料

幼保小 連携実践事例集1

(1班～3班)



川越市幼児教育振興審議会
川越市教育委員会

第47回幼保小連絡懇談会（令和6年度）グループ編成と当番園・校

※●…本年度の当番です。 ◆…令和7年度の当番予定 ★…令和8年度の当番予定

班	幼稚園	保育園等	小学校	各班の当番決定方法
1班	①川越双葉◆ ②こども園初雁★ ③あそか ④ひつじ ⑤川越 ⑥ひまわり（東） ⑦ルンビニ●	①神明町 ②中央 ③仙波町 ④新宿町● ⑤風の子◆ ⑥風の子第二★ ⑦ねむの木 ⑧レイモンド川越 ⑨おひさま ⑩増美川越	①川越第一◆ ②川越★ ③中央 ④仙波●	○20園・校 ○幼・保・小それぞれの順番 幼：①～⑦ 保：①～⑨ 小：①～④ ※おひさま保育園・増美保育園川越は新規加入の為、次回以降の当番です。
2班	⑧ながさわ ④岡田★ ⑪泉の森川越 ⑫芳野台こども園●	①南古谷● ②古谷第二◆ ③南古谷第二◆ ⑤古谷★ ⑥芳野 ⑦はるかぜ ⑨伊佐沼すまいる ⑩星の子みのり ⑬どんぐりの森	①古谷◆ ②牛子★ ③南古谷 ④芳野●	○17園・校 ○幼・保は混合の順番 幼・保：①～⑬ 小：①～④ ※どんぐり保育園は新規加入の為、次回以降の当番です。
3班	①あおば◆ ②川越なかし★ ③ふくはら ④こども園ふじま ⑤藤原白合 ⑥新河岸 ⑦高階●	①高階第二● ②貴精◆ ③高階第三★ ④高の葉 ⑤高階スマイル ⑥高階 ⑦さくらんぼ ⑧音羽の森 ⑨まーぶるきらり	①高階南◆ ②高階★ ③寺尾 ④福原西 ⑤高階北●	○（21園・校） ○幼・保・小それぞれの順番 幼：①～⑦ 保：①～⑧ 小：①～⑥ ※まーぶるきらり保育園は新規加入の為、次回以降当番です。
4班	①ひまわり南★ ②南双葉 ③ひかりの子認定 ④こども園● ④川越あさひ◆	①まきば★ ②大東 ③脇田新町 ④おおぞら ⑤増美 ⑥あゆみ ⑦慶櫻南台● ⑧川越七歩◆	①大東東★ ②新宿 ③大塚 ④武蔵野● ⑤大東西◆	○17園・校 ○幼・保・小それぞれの順番 幼：①～④ 保：①～⑧ 小：①～⑤
5班	①かすみ◆ ②川鶴ひばり★ ③川越第二ひばり ④みよしの ⑤認定こども園 のぞみ ⑥霞ヶ関●	①霞ヶ関第二 ②川鶴 ③むさしの ④下田 ⑤バンビ ⑥霞ヶ関 ⑦マーガレット● ⑧笠幡菜の花◆ ⑨ともいき★ ⑩さくらんぼ第二	①霞ヶ関南◆ ②霞ヶ関西★ ③川越西 ④霞ヶ関 ⑤霞ヶ関東 ⑥霞ヶ関北●	○22園・校 ○幼・保・小それぞれの順番 幼：①～⑥ 保：①～⑩ 小：①～⑥
6班	①第二ひつじ ③川越ひばり ⑤川越白ゆり●	②名細 ④今成● ⑥名細第二◆ ⑦小室◆ ⑧おがやの里しもだ★ ⑨かつらの木★ ⑩増美田町 ⑪紀秀会川越やまだ ⑫かつらの木第二 ⑬音羽の森第二	①広谷 ②月越 ③今成● ④山田◆ ⑤上戸★ ⑥泉 ⑦名細	○20園・校 ○幼・保は混合の順番 幼・保：①～⑬ 小：①～⑦

※当番は、毎年各班2園・1校です。

※●…本年度の当番です。 ◆…令和7年度の当番予定 ★…令和8年度の当番予定

1 班

- | | |
|--|----------------|
| 1 小さい子お当番 | (川越双葉幼稚園) |
| 2 運動会の障害物競走の取り組み方を変更する | (認定こども園初雁幼稚園) |
| 3 親子で遊ぼう会 | (認定こども園あそか幼稚園) |
| 4 当番活動 | (ひつじ幼稚園) |
| 5 お店屋さんごっこ | (川越幼稚園) |
| 6 作品展 共同製作 | (ひまわり幼稚園) |
| 7 ゲーム遊びを通した他者への気付き | (ルンビニ幼稚園) |
| 8 藍って素敵！！自然の力で染め物をしよう。 | (神明町保育園) |
| 9 グループ名を話し合い友だちの思いを知る | (中央保育園) |
| 10 運動会リレーへの取り組み | (仙波町保育園) |
| 11 当番活動を通し自分たちの生活を作っていく | (新宿町保育園) |
| 12 劇ごっこ | (風の子保育園) |
| 13 リレーあそびを通して | (風の子第二保育園) |
| 14 園外活動（地域の方との触れ合い） | (ねむの木保育園) |
| 15 日本の伝統 茶道（茶の湯） | (レイモンド川越保育園) |
| 16 異年齢 幼児の合同保育 | (おひさま保育園) |
| 17 交通ルールを小さい子に教える取り組みから学ぶ | (増美保育園川越) |
| 18 自信を持って発信できる児童の育成 | (川越第一小学校) |
| 19 たくさん運ぼう！「オタカラ」ゲット大作戦(鬼遊び) | (川越小学校) |
| 20 あたらしい 1 ねんせい に 中央 小 学校を しょうかい しよう 。 | (中央小学校) |
| 21 道徳の学習を通して心を育む活動の実践例 | (仙波小学校) |



川越市マスコットキャラクター ときも

R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名)

小さい子お当番

園・校名

学校法人 川越双葉幼稚園

【活動内容】

・ 概要 (小さい子お当番とは)

- ★進級当初に、入園したばかりの年少組の部屋に行き、施設の使い方・生活習慣・幼稚園の約束等を中心に教える当番活動の事。
- ★当番は2日間交代(各クラス4名程)で行い、朝の戸外遊びが終わったら随時部屋に向かう。
- ★当番だけでなく、朝・帰りのバスや、徒歩通園の際等も旗に並ばせたり、遊ぶ際も積極的に年少組との交流を深める等している。

・ 教師・保育士の具体的な働きかけ

- ☆進級してすぐの在園児のみの登園日の際、年長児に小さい子当番がある事を伝える。
→その際何をしたいか具体的にわからない子も多いので、仕事内容を子どもに寄り添いながら伝え、配慮している。
- ☆年少クラスの担任にも実際に年長児の様子や、仕事内容は共通理解する。
→その日の当番に直接年少組の前で褒めてもらったり、当番の様子等で伝達を受け年長クラスでも褒めたり、悩みをクラスで話し合い次の当番までに解決して安心できるよう関りを深めている。

・ 働きかけのねらい

- ★進級したての年長児は、期待も半分ありながら不安な気持ちも抱えて登園している姿が例年みられるので、園全体で今までの頑張りを認めながら、安心して新しい生活が送れるよう配慮している。
- ★担任以外の先生や、クラスの子以外の子ども達に褒められる事で年長児としての自覚が更に芽生え、今後の様々な生活や行事などに繋がると感じている。

・ 成長した幼児・児童の姿

- ☆活動は4・5月位で終わってしまうが、その当番活動が終わってからも積極的に年少組に関りを持つ姿(ブランコを押したり、縄を回してあげたり等)や、自分が戸外に出て遊ぶ前に年少組の部屋を自分からパトロールし、着替えを手伝う姿が多くみられている。
- ☆自分の事だけを考えて行動するのではなく、相手の気持ちになって物事を考えたり、発言も気をつけようとする姿もみられるようになり、小さい子との関りから、クラスの子との関り方も考えられるようになってきているように感じる。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。)

○健康な心と体	○自立心	○協同性	○道徳性・規範意の芽生え	○社会生活との関わり
○思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	○言葉による伝え合い	○豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

意義 年少児が安心して園生活を送れるよう教師だけでなく、園全体(子どもも含め)で関りを持つ事で、結果年長組の成長にも繋がっている。

課題 全員が期待だけを持って当番活動に臨んでいるのではないので、不安やそれぞれの想いをしっかり共有できるよう今後も続けていく。



R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) 運動会の障害物競走の取り組み方を変更する

園・校名 認定こども園初雁幼稚園

	幼児期の教育 (5歳4月～)
○	接続期①: アプローチ (5歳10月～)
	接続期②: スタート (第1学年1学期)
	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

・ 概要

例年、運動会でやる障害物競走は、2人ペアで競い合っていて取り組んでいた。今年の年長児は身体的な支援が必要な子どもが多かったため、競い合うのではなく2人ペアで互いを助け合う「バディ」となって臨んだ。障害物(跳び箱、鎖網、平均台、スケーター)をやりと逐げるたびに喜び合い、ハイタッチで次に進み、2人でゴールを目指した。

・ 教師・保育士の具体的な働きかけ

- ① 日常から2人ペアを意識できるように散歩の手つなぎ相手にし、保育活動に2人ペアで行うゲームを取り入れた。
- ② 競い合うのではなく、「バディとともにがんばる」ことを伝えながら、練習に取り組んだ。協力する姿や、助け合う姿を見かけるたびに、その良さをクラス全体に伝え、みんなで共有するようにした。

・ 働きかけのねらい

日常、関わりの少ない子ども同士をあえて2人ペアのバディとした。また、苦手なことや難しいことを補い合え、互いの新しい発見に気づけるように、2人ペアを考えた。他者との関わりが少ない子どもには、相手に寄り添うことができる子どもを2人ペアにして、友だちと取り組む楽しさを感じ、交流を広げられるように配慮した。

・ 成長した幼児・児童の姿

- ① 自分のことでいっぱいになり易かった子どもが、練習を重ねるうちに自分が障害物をクリアしても、相手を気にかけ、相手がクリアするまで待てるようになった。
- ② 2人ペアでの活動を増やしたことで、1人では諦めてしまうことも、相手がかんばっている姿に影響を受け、自ら挑戦する姿が見られるようになった。
- ③ 子ども同士で相談し、話し合う姿が多くなった。
- ④ 相手との比較でなく、昨日の自分と今日の自分というように、跳び箱の高い段数を跳べるように毎日練習を重ね、当日そのがんばりを保護者に見せることができた。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。)

○健康な心と体	自立心	○協同性	道徳性・規範意の芽生え	○社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	○言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

7月に行った2泊3日のキャンプを終え、クラスの団結力が強くなった後にこの取り組みを実施したことで、より友だちとの関わりが深まった。練習の時間だけでなく、日常から2人ペアを意識し働きかけたことで、自然と子どもたちの意識が変化していった。

現在は、2人ペアの単位からより大人数での活動につながり、互いの良さと同時に課題点を捉え、子ども同士で歩み寄っているところである。



R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) 親子で遊ぼう会

園・校名 認定こども園 あそか幼稚園

【活動内容】

・ 概要

土曜参観の保育活動で、各学級でテーマを決め、親子で創意を生かした製作活動を実施。前日までに各学級(3歳児、4歳児、5歳児)で子どもの実態に応じたテーマと使う材料について話し合い、先生を中心に意見交換する。それを元に各家族で話し合い、当日の製作活動の打ち合わせを行い、実施する。事後は作品鑑賞と各作品の意図を話し合い共有する。

・ 教師・保育士の具体的な働きかけ

- ① テーマについては、親や子どもたちの意見も取り上げながら、年齢による子どもの実態を踏まえたものとなるよう、教師や保育士の支援や援助を十分行っていく。
- ② 使う材料については、無理・無駄のないよう、またSDGsを意識し、家庭にも呼びかけ廃材利用等を行い、製作後も家庭に飾ったり、活用できたりするよう配慮してもらう。
- ③ 年長になると、様々な道具を使って工夫したりできるようになることから、木の端切れ自然物を取り入れたりして工夫することも家庭で話し合わせる。

・ 働きかけのねらい

- ① 年齢に応じた取り組みへのねらいをつかませるため、各学級でのオリエンテーションを通じて保護者や子どもの考えや意見を十分取り入れながら進める。
- ② テーマがなかなか決まらない子に対しては、教師や保育者が寄り添って支援や助言に努め無理なく進められるよう配慮していく。
- ③ 親子鑑賞・発表の場面を設定し、ねらいに即した取り組みや成果を十分取り上げ、賞賛し合えるようコミュニケーションの場づくりに努める。

・ 成長した幼児・児童の姿

- ① 子ども同士や家族での話し合いでは、自分の思いや願いを出し合い、少しでも楽しい、夢のある作品づくりへと意欲を高めながら取り組むことができた。
- ② 廃材利用や材料の利用では、少しでも無駄のないよう工夫して活用する意識が芽生え、家庭やお預かりでも実践しようとする子が増えた。
- ③ 今回の取組を通じて、子ども達同士、教師や保育者と子ども、親子や家族との良好なコミュニケーションや人とのかかわり方に少しずつ変化が見られてきた。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。)

健康な心と体	○自立心	○協同性	道徳性・規範意の芽生え	○社会生活との関わり
○思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	○言葉による伝え合い	○豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

目的意識をもった活動を通じ協働する場面を設定し、話し合いや意思疎通を高めていくために、今回は共同での製作活動を行った。テーマの設定から話し合いを行い、計画、実践する中で、人との関わり大切さについて学ぶことができた。言葉がまだ十分に使いこなせない子どもたちの考えや思いを引き出すためには、親や教師・保育者が目の前の一人ひとりの子どもとの温かな人間関係、確かな信頼関係を築くことが求められる。今後も日々の保育活動を通じ、子どもたちの自己肯定感を高めながら創意工夫した取組を行っていきたい。

R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) 当番活動

園・校名 ひつじ幼稚園

☐	幼児期の教育 (5歳4月～)
☐	接続期①:アプローチ (5歳10月～)
	接続期②:スタート (第1学年1学期)
	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

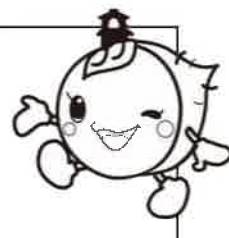
- 概要 当園では年少の2学期から始まり卒園するまで、各クラスで当番活動を行っている。3名の当番が毎日、順番にまわってくる。当番になると、特別に当番バッチを付け、朝の会ではみんなの前に立ち、自分の名前を言ったり、お約束事を言ったり、季節の歌をうたう。また、幼稚園教諭やクラスの友達からの質問にも答える。その後は一日当番の仕事があり、飲み物を配ったり、机を拭いたり、みんなのためにクラス活動の仕事を手伝う。
- 教師・保育士の具体的な働きかけ
 - クラスみんなが静かに発表を聞けるような環境づくりをする。
 - 人前では恥ずかしくて、なかなか発表ができない子への配慮をする。
 - 上手に発表ができた、みんなのために仕事をしてくれたことを、たくさん褒めてあげる。
- 働きかけのねらい
 - みんなの前でも、堂々と発表できる力をつけるため。
 - 他の友達から頼られたり、人のためにすすんで当番の仕事をする事で自己肯定感を高めるため。
- 成長した幼児・児童の姿
 - 人前でも発表できる力をつけることができる。
 - 「誰かのためにやってあげよう」という他人を思いやる優しい気持ちを育むことができる。
 - 友達から頼られることで、自分に自信が持て、自己肯定感を高めることができる。
 - クラスでの当番活動の他に年長組になると全体集会での当番があり、全園児の前で二人ずつ自分の名前やお約束事の発表、季節の歌をうたったり、幼稚園教諭からの質問に答える場もつくっているが、とても堂々と行うことができる。またその姿を保護者の方にもお見せしている。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

健康な心と体	○自立心	○協同性	道徳性・規範意の芽生え	○社会生活との関わり
○思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	○言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

- 人前でもしっかり発表ができるようになり、自分への自信と、他人を思いやる気持ちを育むことができる。



R6 幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結びついた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) お店屋さんごっこ

園・校名 学校法人えのもと学園 川越幼稚園

【 活動内容 】

- ・概要・全園児で行うお店屋さんごっこに向けてグループ毎に話し合いをしながら進める。
 - ・役割を考えたり、アイディアを出しあうことで色々な考えを知り、折り合いのつけ方を学ぶ機会になる。
- ・教師・保育士の具体的な働きかけ
 - ・友だち関係の広がりや一人ひとりの性質を考え、グループを作成する。
 - ・子ども達の輪の中で自分の意見を伝えたり受け入れられるように仲介し、解決に導く提案をする。
 - ・制作の計画を立てて描いた図を見返し確認しながら足りないところにも気が付けるようにした。
 - ・他学年にお店の宣伝をし、お客さんに楽しんでもらう方法を考える機会を作った。
- ・働きかけのねらい
 - ・新しい友だちとの関わりが増え遊びなど園生活にも友だち関係に広がりを持てるようにする。
 - ・自分で気付いたり、思いついたことを皆で伝えあい、行動できるようにする。
 - ・自分だけでなく、お客さんにも楽しんでもらえるように責任感と思いやりのある言動がとれるようにする。
- ・成長した幼児・児童の姿
 - ・話し合いを重ねるうちに、提案や解決方法が子ども達から出るようになった。また相手の気持ちや考えに耳を傾けるようになる。
 - ・客数や品数を数え計算しながら皆で確認し、数についても考えられた。
 - ・低学年の子に対して目線を合わせ、優しく伝わりやすい話し方ができた。
 - ・お店屋さんごっこ当日は自分の持ち場で責任感を持って行動出来た。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。)

健康な心と体	自立心	共同性	道徳性・模範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝えあい	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

意義・色々な友だちと話し合いを重ね、目標に向けて協力し合うことで達成感や自信を得る。

課題・積極性のある子がいる反面、進んで行動に移せなかったり、自分の意見を出せない子がいた。また折り合いがつけられず譲ってもらう園児もいたため教員が一人ひとりの気持ちを受けて代弁したり、仲介する必要がある。

- ・宣伝や当日だけでなく制作過程も見せることで、他学年の興味関心も高まるのではないかな。
- ・品物を決めてからグループを決めればより一人ひとりの自主性や意欲も高まるのではないかな。



R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) 作品展 共同製作

園・校名 ひまわり幼稚園

	幼児期の教育 (5歳4月～)
○	接続期①:アプローチ (5歳10月～)
	接続期②:スタート (第1学年1学期)
	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

- ・ 概要
 - *一つのテーマを決めて、クラス全員で協力し作品を作り上げる
 - *誰がどこを(なにを)担当するのか、素材は何を使い、どのように展示するのか、子どもたちの意見を引き出して話し合いながら、丁寧に進めていく
- ・ 教師・保育士の具体的な働きかけ
 - *そのテーマについて十分イメージを膨らませられるような環境設定を行う
 - *全員が納得して話し合いを進められているか、一人ひとりの表情を良く観察する
 - *作品が出来上がっていくたびに、その喜びや達成感を言葉にして伝え、全員で共有する
 - *友だちの良さに気づき、お互いに褒めたり認め合ったりできるような、きっかけを作る
- ・ 働きかけのねらい
 - *一人ひとりが、自分の思いや意見を持つとともに、相手の意見を聞いたり、共感できるようにしていく
 - *自分の気持ちを抑えて、人の意見に賛成していくような場合は、その思いを受け止めまた、そのことをみんなの前でも認めていきたい
 - *作品の完成にあたっては、一人ひとりが自分の力を発揮して活躍したから、そして全員で協力したから、素晴らしい作品が出来たということを実感してもらいたい
 - *お友だちを評価したり、自分が評価される中で、自己肯定感の向上にもつなげたい
- ・ 成長した幼児・児童の姿
 - *自分の考えを言葉で友だちに伝えようとする。また友だちの話をよく聞き理解しようとする
 - *友だちの良いところに気付いたり、頑張りを認めたり憧れて真似をしようとしたりする
 - *友だちと共通の目的があることで勇気づけられ、最後まで協力してやり遂げようとする
 - *協力する楽しさやチームとしての達成感を感じることができた

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。)

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

個人でつくる作品とはまた違い、友だちと協力して作る共同製作でしか味わえない楽しさや学びがたくさんある。意見がぶつかることもあるが、そのたびに話し合いを深めたり、譲り合ったりして協調性が身についていく。中には製作活動が苦手な子もいるので、そのような子も「みんなの力になれた」と達成感が味わえるよう、保育者が教材や技法で、様々な選択肢を用意しておく必要がある。こだわりの強い子、個人での活動が好きな子もいるが、「みんなで協力して作ることが楽しい」と実感できるような関わり、環境にしていこう



R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) ゲーム遊びを通した他者への気付き

園・校名

ルンビニ幼稚園

○	幼児期の教育 (5歳4月～)
○	接続期①: アプローチ (5歳10月～)
	接続期②: スタート (第1学年1学期)
	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

・ 概要

4月～鬼ごっこ・狼さん今何時・しっぽ取り・ボール当て等
10月～二人組物運びゲーム・リレー・ドッチボール等

※ 今年度の年長児は個性が強く、協調性の面においては課題が多い背景がある。

・ 教師・保育士の具体的な働きかけ

運動祭り(運動会)をきっかけに、その少し前からゲームをクラス皆で取り組んできた。

運動祭り終了後は、自主活動終了後、保育室に戻る際に毎回全員でゲームあそびを行うようにしている。

・ 働きかけのねらい

- 異年齢の保育の生活で、年齢の差、成長の差がある中で共通の遊びを通して、相手の思いに気付く。特に年長児は低学年への接し方を考え、クラス全体で活動するときの協調性の大切さに気付く。
- 信頼関係を確認した上で、チーム対抗ゲーム遊びを行う中で、仲間と作戦会議や話し合いの場を経験することにより、相手の気持ちに気付き、自分の行動を調節しようとする。

・ 成長した幼児・児童の姿

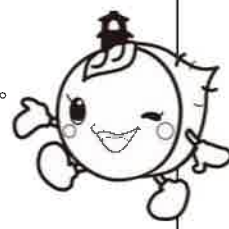
チーム対抗戦では、個々の主張が強く、ゲームに負けると逃げ出したり、人のせいにしたりする姿が見かけられ、チームが成り立たない時期もあった。また、子どもなりに勝つための人選びも行うなどの姿もあったが、それで勝ち続け喜んでいる際に、相手の不服の訴えによりやく気付き、話し合いが始まった。他学年も一緒の中、年長なりに、チームに隔たりが出来ないように先に二手に分かれたり、リレーでは同じチームで順番を考えたり、子ども達自身で考え積極的に動けるようになった。勝ち負けを繰り返す中で、くじけても前に進むことや、何よりも友だちの存在を認めながら、話しあい、考えていく姿が多く見られた。他学年と一緒に生活している中で、思いやりや優しさを発揮する機会が増えること、相手も視野に入れて活動する機会が増えることで、仲間と行うゲームの楽しさを感じていた。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。)

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

ゲーム遊びを飽きてしまう子もいるので、子どもの様子を見ながら内容を変えていった。個々の不得意分野で活動意欲を失わないよう、ゲームの内容やルールを変えていき、出来た！勝てた！という実感を増やし次の活動の参加意欲に繋げていった。



R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) 藍って素敵!! 自然の力で染め物をしよう。

園・校名 川越市立神明町保育園

○	幼児期の教育 (5歳4月～)
○	接続期①: アプローチ (5歳10月～)
	接続期②: スタート (第1学年1学期)
	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

◎概要

- ・ 藍を栽培している高校から種を分けてもらうため、みんなでポストに手紙を投函する。
- ・ 届いた種をまき、当番で水やりをして育てる。育った葉を3回刈り取り乾燥させる。
- ・ 乾燥した藍を鍋で煮出し、その液で藍染めをする。
- ・ 染めた布を使って針と糸で巾着袋を縫い上げる。

◎教師・保育士の具体的な働きかけ

- ・ 水やり当番と一緒に毎日水やりをし、育った葉を見て成長を共に喜び合う。
- ・ 刈り取った葉の匂いや触感など、こどもたちからの気づきを大切にし皆にも伝えていく。
- ・ 液に漬け込む回数や空気に触れる時間によって、布の色が変わっていく不思議を共に体験し共感する。

◎働きかけのねらい

- ・ ポストに手紙を投函し種を分けてもらうことで、会ったことのない人とのつながりを持ってたことの喜びを体験する。また種を介してつながった高校生の存在も意識し、より大切に育てる。
- ・ 種からの栽培(種から芽、葉の成長)やそれを利用した染め物に興味関心を持ち、先を想像しながら活動を楽しむ。
- ・ 水やり当番を友だちと協力したことが葉の成長につながったことを喜ぶ。

◎成長した幼児・児童の姿

- ・ 水やりをしないと枯れてしまう植物を、大切に育てることができた。
- ・ 「虫にくわれてるよ。」などと小さな変化に気づき報告してくれるようになった。
- ・ 染めあがった布を見せ合いそれぞれの色合いや模様の良さを感じ、喜び合う姿が見られた。体験して初めてわかる感動を味わえた。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。)

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

- ・ 長期にわたり好奇心や探求心を持って活動に取り組めた。
- ・ 自分の作品を作り上げる達成感を味わえた。
- ・ 当番活動への意識や見通しをもってイメージを膨らませていくことは個々の差が大きかった。保護者への働きかけも必要だった。

R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) グループ名を話し合い友だちの思いを知る

園・校名 中央保育園

☒	幼児期の教育 (5歳4月～)
☐	接続期①:アプローチ (5歳10月～)
☐	接続期②:スタート (第1学年1学期)
☐	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

・ 概要

前期、後期とグループを作りグループ名をグループで話し合う。自分の思いを伝えられなかったり、相手の気持ちを聞けなかったりする様子が見られたのでグループ少人数で自分の思いを伝えたり友だちの意見を聞き他者とのかかわりを深めようしていく。

・ 教師・保育士の具体的な働きかけ

- グループの名前を話しやすいようにテーマを伝える。(自分の思いを伝えにくい子は伝えやすい雰囲気を作る、話し合いを見守り決定できるように見守る)
- グループ名が決定したら子どもがわかるように絵を描いていく。

・ 働きかけのねらい

- 自分の意見を相手に伝える
- 相手の意見を聞こうとする
- 主体的に活動を進め、楽しさを知ろうとする

・ 成長した幼児・児童の姿

友だちの意見に耳を傾けながらも自分の思いと折り合いをつけながら話し合いを進めていた。自分の思いが通らない葛藤もあり時間はかかるが担任がフォローしていくうちにグループで納得していく。後期のグループ決めでは自分の意見を伝え、相手の意見も知ろうとする姿がみられた。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の 芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・ 生命尊重	数量や図形、標識 や文字などへの 関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

子ども同士で話し合うことで、自分の意見を伝え・相手の思いを知る経験ができた。成長している姿がみられたので困ったことや問題点がでたら話し合いの場面を保障していきたい。

R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) 運動会リレーへの取り組み

園・校名

山形県保育園

幼児期の教育
(5歳4月～)

○

接続期①: アプローチ
(5歳10月～)

接続期②: スタート
(第1学年1学期)

小学校教育
(第1学年2学期～)

【活動内容】

・ 概要

運動会でクラスを2チームに分け、リレーを行うため、練習を始める。

・ 教師・保育士の具体的な働きかけ

- ・ 保育の中でリレーゲームを経験し、運動会のリレーに繋げていく
- ・ 友だちと協力し、応援する、応援してもらう、うれしさを伝えてから練習する
- ・ 負け、悔しい気持ちを勢いで伝える子がいたため、全員で話し合いの時間をとり、どのように取り組んでいけばいいか、クラスで考える

・ 働きかけのねらい

- ・ 友だちと協力して活動に参加し、楽しむ、達成感を味わってもらうこと、勝ち負けで仲間に対し、さげすまない言葉を発言していい場面があること、1人だけで頑張ることや言葉について再度クラスで話し合う機会を設けようと考えた。

・ 成長した幼児・児童の姿

うれしい言葉がけ、悲しい言葉について、リレーの場面や日頃の様子から考え、こどもたちと話し合いができた。4人1組の仲間に対して、応援したり、励ましたりする言葉が増え、負けたときでも、次、また頑張ろうと、こども同士で走り練習をして、友だちの頑張りを認める声が出てきた。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

リレーという活動を通して、友だちと協力したり、励ましたり、協力して活動に参加する楽しさを味わえた。友だちから温かい言葉も言ってもらえることで、自分自身もうれし、頑張れる経験をするこどもが増えてきた。リレーだけではなく、普段の生活の中の言葉についても、改めて考える機会にできた。

保育の中で友だちとかがあって遊んだり、活動する中で、自分の思いを伝えると共に、相手の気持ちを考える大切さ、言葉の伝え方もその都度、考えられる機会を作ることも必要である。



R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) 当番活動を通し自分たちの生活を作っていく

園・校名 川越市立新宿町保育園

【活動内容】

- 概要
 - 小グループ内での班内個人当番を通し、グループみんなのために当番の仕事を行う。
(テーブル拭き・食事の声掛け・課題活動時の配布物配り・グループ当番時のリード)
 - グループ当番を通し、園内・クラス内の活動をグループで協力しながら行う。
(絵本整理・洗濯物回収・雑巾がけ準備片付け・午睡時の準備片付け・農園活動等)
 - 個人がクラスリーダーを通しクラスの生活に関わる仕事を行う。
(出席人数確認・報告・午睡前の絵本選び・飼育の餌やり・クラス全体に関わる仕事等)
- 教師・保育士の具体的な働きかけ
 - 一人ひとり生活のペースが違い周りへの意識レベルも広い、狭いがあることを加味しながら個々に応じた関わりや、声掛けや援助を行い集団につなげていく。
 - 相手を非難したりするよりも、こども同士困り感を共有することで「どうしたらより良いか」を考えあう機会を作る。
 - 当番活動を通しみんなの役にたっている実感や喜ばれる経験を積み重ねていく。
- 働きかけのねらい
 - 「ひとりみんなのために、みんなはひとりのために」自分たちの生活は自分たちでつくり、保育園全体にも目を向け年長児として異年齢クラスや園生活の一部を担う。
 - 集団生活における「他者との関わり」は不可欠であり、就学を迎える年長児として自分の身の回りのことは勿論、困っていたり手伝いを必要としている子に気づけ、手を差し伸べる気持ちが持てるこどもに育ててほしい。
- 成長した幼児・児童の姿
 - マイペースやせっかちだった子たちも自分のペースだけではなく、周りを見ながら相手のことを考えられるようになってきた。
 - 先を見通しこども同士声を掛け合ったり、助け合う姿が見られるようになった。

※幼児期の終わりまでに育ててほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

自分の身の回りの事ができるようになって年長クラスに進級し、いろいろなグループ活動をしていく中でトラブルを経験しながらも個々に成長している姿が見られます。保育の中でリーダーとして仲間のために頑張る場面を作ったり、行事では小さい子のリードをしたりすることで自信をつけています。

R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名)

劇こっこ

園・校名

風の子保育園

【活動内容】

・ 概要

発表会に向けて「へんぎんたんけんたい」という話をもとに
劇の練習を行った。

・ 教師・保育士の具体的な働きかけ

- まずどんなお話か知るために「へんぎんたんけんたい」の絵本を読み、あらすじがわかったところでみんなで丸くならて役を決めた。なるべく自分のやりたい役になれるよう考慮しながら決めてしまったら相談やじゃんけんなど、子どもたちが納得のいく方法で決めていった。
- 劇に必要な道具や材料を子どもたちに問いかけ、子どもたちの意見をもとに模造紙や絵の具、ダンボールを使って劇の道具を作っていた。
- 働きかけのねらい
 - 友達とお話のイメージを共有しながら、一つのことに向けて協力して道具作りをし、友だちの良い所を見つけ一緒に演じることの楽しさを知る。
 - みんなで同じ目標に向かって進んでいく面白さや達成感を味わい、自信をつけていく。
 - 集団の中で自分の役割の大切な一員であることを知り、自信をもつ。
 - 自分の考えや気持ちを伝える喜びを味わう。
- 成長した幼児・児童の姿
 - 練習を重ねていくうちにどのように演じたらいいか考えながら演じることができていたり、道具作りで子どもたち同士で声をかけながら役割を担って絵の具やペンなどを使って完成させていた。
 - 人前に出ることが恥ずかしい子どもも友達と一緒に演じることで、演じる楽しさを感じていた。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

意義: 友達とお話のイメージを共有しながら一つのお話を考える力がついてきた。

友達と合わせてセリフを言うことで協調性の力がついてきている。

課題: 周りの友達に発言やアイデアに刺激を受けながら自分の意見も伝えることで集団の中で自分を表現する力をつけてきている。

道具作りでやりたい担当がわがやるとそこトラブルになったりした。

セリフにハマってしまうと周りの子が迷惑するように教えている時があった。



R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) リレーあそびを通して

園・校名 風の子第二保育園

☐	幼児期の教育 (5歳4月～)
☐	接続期①:アプローチ (5歳10月～)
	接続期②:スタート (第1学年1学期)
	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

- 概要
 - ・クラスを2チームに分けてリレーをする。順番をチームで話し合って決める。
 - ・コースの確認。
 - ・バトンの受け渡し方、コースなどで上手くいかない姿が見られた。
 - ・チームごとにやる前・やった後話し合いの場を設けた。
 - ・みんなで話し合いをしていく中で、新たな作戦が加わっていく。
- 教師・保育士の具体的な働きかけ
 - ・ルールなど子ども同士で話し合い、お互いの意見を聞いて解決策を考えていき、みんなの意見を知れるように話を整理し状況をわかりやすく伝える。
 - ・解決できた喜びを味わえるようにする。
 - ・色々な意見がある中でゆづったり、ゆづられたりする経験ができるようにする。
- 働きかけのねらい
 - ・折り合いをつける力を育む。
 - ・みんなで考えたルールを理解し、約束事を守りながら遊ぶことを楽しむ。
 - ・自分の気持ちを言葉にしたり、相手の話に耳を傾けられるようにする。
- 成長した幼児・児童の姿
 - ・どうやったら勝てるかチームのみんなで考えるようになった。
 - ・負けても悔しいからもう一回やるという気持ちの子が増えた。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の 芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・ 生命尊重	数量や図形、標識 や文字などへの 関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

意義・最初は負けると怒ったり、泣いたりする子がいたが、活動を通して自分の気持ちに折り合いをつけたり、相手の気持ちも考えようとしている姿が見られるようになった。

課題・自分で考え積極的に意見を言っている子もいるが自分の気持ちを積極的に出せない子や友達と同じことを言う子もいるので今後も遊びのなかで話し合いの場を多くつくっていきたい。

R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) 園外活動 (地域の方との触れ合い)

社会福祉法人 範雄会 ねむの木保育園

☐	幼児期の教育 (5歳4月～)
☐	接続期①:アプローチ (5歳10月～)
	接続期②:スタート (第1学年1学期)
	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

・ 概要

○電車に乗る。高齢者施設訪問、遠足等、公共の場に行き様々な方と関わり、約束事を知る。

・ 教師・保育士の具体的な働きかけ

☆公共のルールを伝える。

☆自分以外の存在を知らせる。(自分とは違った特性を持っている方もいるということ)

☆それに対し、どう思うか。考えるか。『子ども会議』を開き、話し合う。

・ 働きかけのねらい

① 日々の生活の中で自分より弱い存在がいるということ。自分のとった行動で困る人がでてくるとも知り始めている。

② 国籍、出身が多様なクラスであり、違和感なく受け入れている。

③ 受け入れているが、故に『違い』に対して慣れすぎて悪意なく口にしてしまっている。

・ 成長した幼児・児童の姿

○公共の場で何でも勝手に触れたりしなくなった。

他、電車で静かに立って乗るなど身についた。(すれ違った方にお褒めの言葉をいただいた。)

○今、小さい子はお昼寝しているから静かにしよう等、他者を思いやる発言や行動が出るようになった。

○子ども会議をする事で発言が増え、聞く姿勢も育ち始めている。

○自分以外の存在についてはまだ活動途中だが自分の発言が人を傷つける時もあると知り始めている。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。)

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の 芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・ 生命尊重	数量や図形、標識 や文字などへの 関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

意義・・・自分の気持ちと同じくらい、他者の気持ちを大切に出来るよう伝えたかった。

課題・・・他園との交流、図書館など公共の場を利用して広げたい。

R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) 日本の伝統 茶道(茶の湯)

園・校名 レイモンド川越保育園

☒	幼児期の教育 (5歳4月～)
☐	接続期①:アプローチ (5歳10月～)
☐	接続期②:スタート (第1学年1学期)
☐	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

・ 概要

昨年、初めて茶道(茶の湯)の世界に触れ、興味・関心を持ち、さらに学びを深めていった。

・ 教師・保育士の具体的な働きかけ

子どもたちが茶道(茶の湯)の時間で抱いた興味・関心をその時だけで終わらせるのではなく、日々の保育でも広げたり・深めたりした。

茶道(茶の湯)に対しての質問を子どもたちから聞き出す。

質問をもとに、茶道(茶の湯)の先生に知りたいことを聞く

・ 働きかけのねらい

月に1度の茶道(茶の湯)をさらに楽しく、有意義に過ごせるように、普段聞く事が出来ない疑問を直接伝え、学びを深める機会を設けた。

・ 成長した幼児・児童の姿

茶道(茶の湯)に対する疑問が増えた。

日本の伝統や和菓子への興味が広がった

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。)

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

意義: 茶道(茶の湯)を通して伝統を知り、住んでいる川越の伝統にも親しむ。

課題: 探求の的を絞りより深く学べるような働きかけ

R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) 異年齢 幼児の合同保育

園・校名 おひさま保育園川越富士見町

☐	幼児期の教育 (5歳4月～)
☐	接続期①:アプローチ (5歳10月～)
	接続期②:スタート (第1学年1学期)
	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

- 概要
3歳～5歳児(主に4・5歳児)で合同保育を行う機会を多く持ち、散歩やリズム遊びを通しお互いの存在が刺激になるよう活動した。
- 教師・保育士の具体的な働きかけ
散歩のときに5歳児は年下の園児と手をつなぎリードするよう働きかけた。
リズム遊びでは5歳児から行い、4・5歳児の手本となるよう促した。
日々のほいくでも、下のクラスの子が5歳児に憧れの気持ちが抱けるよう活動の計画を立てた。
- 働きかけのねらい
クラスとしてまとまりがあったが、異年齢児との関りが少なく、年下の園児と対等になりトラブルが多かった為、異年齢児とのかかわりを多く持った。
年長児としての自覚が持てるよう働きかけた
- 成長した幼児・児童の姿
年下の園児に対して気遣えるようになり、声を変えてから

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。)

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

意義: クラスの友達だけでなく、他のクラスの事も一緒に遊ぶ姿がみられるようになった
小さなお友だちに手加減するなど、気遣える子も増えました。

課題: 年齢や発達の違いがある中でみんなが楽しめるよう遊びのルールに柔軟性をもっていく。

R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) 交通ルールを小さい子に教える取り組みから学ぶ

園・校名 増美保育園川越

	幼児期の教育 (5歳4月～)
○	接続期①:アプローチ (5歳10月～)
	接続期②:スタート (第1学年1学期)
	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

- ・ 概要
- ・ 散歩に出かける前に、年下クラスのお友達に交通ルールを教えるための劇を行う。
- ・ 伝える内容は、子ども同士が話し合いで決める。
- ・ 教師・保育士の具体的な働きかけ
- ・ 園内のルールを確認した後、園外ではどんなルールがあるか、絵本・イラスト等を見ながら確認をした。
- ・ 考えた内容を、どうやって、年下クラスに伝えるかを子どもたちで考える。
- ・ 働きかけのねらい
- ・ 交通ルールを再確認する。
- ・ 自分たちで考えることにより、互いの意見の違い、折り合いのつけ方を知る。
- ・ 自分の頭の中で考えたことを、言葉にして相手に伝える。(イメージの共有する経験をする。)
- ・ 成長した幼児・児童の姿
- ・ 少しずつ、意見の相違があってよいことに気が付き、妥協点を見つけようとする姿があった。
- ・ 自分の考えを友達に聞いてもらえる中で、発言をすることへ自信を持つ姿があった。
- ・ 年下クラスに堂々とわかりやすくルールを教える姿があった。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。)

健康な心と体	○自立心	協同性	○道徳性・規範意の芽生え	○社会生活との関わり
○思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	○言葉による伝え合い	○豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

意義…・交通ルールを守ることの大切さを再確認していた。

- ・ 年下クラスにしっかりと教えることができた。
- ・ 自分の意見・気持ちだけでなく、相手のことを考える姿が見られるようになった。

課題…・相手の気持ちへの理解に個人差が見られる。今後も、活動を見直ししながら、継続的に行っていきたい。

R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) 自信を持って発信できる児童の育成

園・校名 川越市立川越第一小学校

	幼児期の教育 (5歳4月～)
	接続期①:アプローチ (5歳10月～)
○	接続期②:スタート (第1学年1学期)
	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

・概要

4～5月の生活科「がっこうだいすき」の単元において、学校探検を通して、学校生活を支えている人々や友達と自分との関わりを見つける活動を行った。入学して1週間後に教師によるガイドツアー型で学校探検を行い、さまざまな施設や先生方、2～6年生の上級生の姿に興味を持った子供たちは、「自分たちだけで学校探検をしたい、いろいろな先生となかよくなりしたい」という願いを持った。それをもとに1年生だけのグループを作り、学校探検をする計画を立て、5月に実行した。自分の言葉で先生方へインタビューをしたり、学校探検で発見したことをカードに書いてクラスのみんなや保護者の前で発表したりすることで、自信を持って発信できる児童が増えるように取り組んできた。

・教師・保育士の具体的な働きかけ

- ①長い休み時間は学校探検を自由にさせ、疑問や困ったことを見つけさせ、解決の糸口を助言した。
- ②NHK for school「すたあと」の「じこしょうかいげえむ」の回を視聴し、自己紹介の練習を友達と行った。
- ③話をつなぐ言葉「たしかに、そうだね、さすが…」「聞き方名人あいいうえお」「発表名人かきくけこ」の掲示物を教室に掲示し、いつでも実践できるように意識付けを図った。

・働きかけのねらい

子供たちの「やってみたい!」という思いや願いを第一に考え、それが実現できるように声かけや準備を行った。また、授業のゴールを教師も児童も共通したイメージできるように話し方や聞き方の「モデル」を提示し、動画等で見せるようにしてきた。

・成長した幼児・児童の姿

○入学して1か月も満たずにクラスみんなの前に立って発表することに抵抗が減り、6月上旬の学校公開日では保護者の前で全員が発表をすることができた。2学期以降の活動でも大きな声で話したり、自分の考えを伝えたりすることができるようになった。

○先生方へあいさつをする際に「○○先生、こんにちは。」と名前を呼んでいる児童が増え、先生方との距離感を縮めることができた。

○他の教科においても、自分から「○○してみたい」という意欲が高まった。また、友達と協力することの楽しさ、大切さに気付いている児童が見られ、成長を感じた。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。)

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

- ・小学校入学時に対する不安より「たのしい、おもしろい、自分にもできた」という思いを児童に持たせることができた。
- ・話すことを上達させるためには聞き手の「聞き方」のレベルアップが不可欠である。相手の立場に立って話を理解していけるような指導を今後も行っていきたい。

R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) たくさん運ぼう! 「オタカラ」ゲット大作戦(鬼遊び)

園・校名 川越市立川越小学校

幼児期の教育
(5歳4月～)

接続期①: アプローチ
(5歳10月～)

接続期②: スタート
(第1学年1学期)

○ 小学校教育
(第1学年2学期～)

【活動内容】

・概要

体育の学習を通して、①自分のよさに気づき自己効力感を高めること、②友だちとの温かい関わりを意図的・計画的に、共感的な人間関係を生み自己有用感を育むこと、③学習計画や学習活動の工夫により自己調整力や技能・体力の向上を図ることを目指す児童像として指導した。

・教師・保育士の具体的な働きかけ

- 1 学習の見通しをもたせるための持ち運び可能な掲示板の活用
掲示板の表面には単元計画・本時のめあて・技のポイント・まとめを掲示し、裏面には本時の流れ・メンバー表、対戦表・児童が見つけたポイントを掲示した。
- 2 ストーリー性のある単元計画の作成
ベーシックタイム(共通課題への取組)では宝を獲得すること、チャレンジタイム(個別課題への取組)では獲得した宝をロケットまで運ぶというストーリーで指導した。ストーリーやめあての確認をする際には、紙芝居を使うなど思考力を高められるよう工夫した。
- 3 互いの良さを認め合う場面の設定
教師が率先して児童を称賛して手本を示すとともに、作戦会議やまとめの時間には、友だちの動きの良さに気づき伝えられるよう指導した。

・働きかけのねらい

- 1 児童が自ら意欲的に運動に取り組む姿勢を育む。
- 2 ゲームを通じてよりよい動きを考えさせることで児童の思考力を高める。
- 3 互いの良さを認め合うことで共感的な人間関係を生み、自己有用感を育む。

・成長した幼児・児童の姿

- 1 思いきり体を動かすことの気持ちよさを感じられるようになった。
- 2 自分の動きや相手チームの動きについて考えることで思考力を高めることができた。
- 3 互いの良さを認め合うことができ、自己有用感を育むことにも繋がった。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。)

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

<意義>

- ・児童が生き生きと体育の学習に取り組むことができた。
- ・3つのねらいの達成に向けて、学年で教材研究し、児童の実態に合った指導を行うことができた。

<課題>

- ・他の運動領域においても児童の実態に合った指導を研究する必要がある。
- ・運動習慣を身に付けさせるために学校と家庭との連携を深める。

R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～
(実践名) あたらしい1ねんせいに 中央小学校をしょうかいしよう。

園・校名 中央小学校

☐	幼児期の教育 (5歳4月～)
☐	接続期①:アプローチ (5歳10月～)
☐	接続期②:スタート (第1学年1学期)
☒	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

- 概要
 - ・小学校の生活を紹介する動画を作成し、連携している園と共有する。
- 教師・保育士の具体的な働きかけ
 - ・入学前や入学直後の気持ちを想起させ、多様な気持ちを引き出す。
 - ・今の年長児の気持ちと関連付け、1年生としてできることはないかを考えさせる。
- 働きかけのねらい
 - ・新しい1年生とかかわることのよさや楽しさに気付くことができる。
 - ・1年前の自分を思い起こして、新しい1年生の立場や気持ちを想像して考える力を育む。
 - ・新しい1年生に喜んでもらいたいという思いをもち、わかりやすく伝えようとする心を育む。

成長した幼児・児童の姿

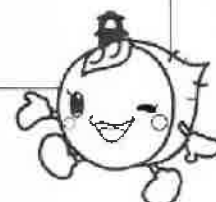
新しい1年生のことを考えながら活動を進める中で、自分ができるようになったことや、自分の役割が増えたことなど、自分の成長に気付くことができた。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

- 意義 児童が園児の思いや気持ちを考える経験をすることができる。
- 課題 次の段階として、直接の交流機会を設けるために、年間計画の見直し、園と打合せの設定



R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) 道徳の学習を通して心を育む活動の実践例

園・校名 川越市立仙波小学校

幼児期の教育
(5歳4月～)

接続期①:アプローチ
(5歳10月～)

接続期②:スタート
(第1学年1学期)

○ 小学校教育
(第1学年2学期～)

【活動内容】

・ 概要

はしの上のおおかみ(12月)

・ 教師・保育士の具体的な働きかけ

- 自分の優しくされた経験を発表させ、その時の気持ちを共有させる。
- 話の途中途中で、場面ごとの掲示物を掲示し、その都度気持ちを考えさせるようにした。
- 教師対子どもで役割演技をし、気持ちを考えさせるようにした。
- ワークシートで、自分の考えをまとめるようにした。
- 最初と最後で、気持ちが変わったことを押さえるようにした。

・ 働きかけのねらい

○役割演技の場面では、児童に一貫しておおかみ役を行わせることで、気持ちの変化に気づかせることをねらいとした。場面が変わるごとに役割演技を行い、最後には全員が、一人一人前に出てきて発表することで、実感を伴うようにした。

・ 成長した幼児・児童の姿

○最初の発表では、物やお金をもらった経験を話す子が多かったが、そうではない優しさがあるということに役割演技や話し合いを通して気づくことができた。また、振り返りの場面で、掲示物の中のおおかみの表情が、とおせんぼうの時より、抱っこして「こうすればいいんだ」と橋の向こうに相手を渡してあげたときの方が優しくなっているということに気づく子もいた。役割演技のときに、自分なりにセリフを考えて演技をすることができる子もいた。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。)

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の 芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・ 生命尊重	数量や図形、標識 や文字などへの 関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

意義

一人一人が役割演技をすることで、自分ごととして気持ちを想像しやすくなる。

課題

自分が嬉しい、自分が楽しいと思うことをよしとしてしまう子もまだまだいる。相手の気持ちを押し量ることが難しい子については、日々の生活指導、生徒指導、さまざまな教科等の指導を通して、豊かな心情を育てていく必要があると考える。

2 班

- | | |
|-----------------------------|---------------|
| 1 ドッチボールを楽しむ | (ながさわ幼稚園) |
| 2 発表会に向けての声劇活動 | (認定こども園岡田幼稚園) |
| 3 給食当番 | (認定こども園泉の森川越) |
| 4 年賀状用写真を撮ろう | (芳野台こども園) |
| 5 話し合うことで育まれた力 | (南古谷保育園) |
| 6 リレーの取り組みを通して | (古谷第二保育園) |
| 7 運動会の練習を通して | (南古谷第二保育園) |
| 8 野菜作り | (古谷保育園) |
| 9 ひまわり組の約束～年長組になって～ | (芳野保育園) |
| 10 芋掘り活動を通して農家の人や友達との交流を深める | (はるかぜ保育園) |
| 11 トリックオアトリート～地域との関わり～ | (伊佐沼すまいる保育園) |
| 12 自分の気持ちを言ってみよう！ | (星の子みのり保育園) |
| 13 ルール・約束事を自分達で考え決める | (どんぐりの森保育園) |
| 14 他者との関わりを深める生活科の実践 | (古谷小学校) |
| 15 あきの おもちゃを つくろう | (牛子小学校) |
| 16 かたちあそび(算数) | (南古谷小学校) |
| 17 たのしいあきいっぱい | (芳野小学校) |



川越市マスコットキャラクター ときも

R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) ドッチボールを楽しむ

園・校名 ながさわ幼稚園

	幼児期の教育 (5歳4月～)
○	接続期①: アプローチ (5歳10月～)
	接続期②: スタート (第1学年1学期)
	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

・ 概要

集団での遊びより、砂場やキックバイク、ブランコなど一人一人の遊びをする子が多かった。鬼ごっこや中あてを誘っても、途中でやめてしまったり、1回やったら終わりとなってしまい、あまり興味がない様子だった。そのため、クラス全体に声をかけ、みんなでドッチボールをやってみることにする。

・ 教師・保育士の具体的な働きかけ

初めに、ルールの説明をした。約束事として、途中でやめない、途中で砂いじりをしない。などを話した。
遊びに慣れてきて、楽しくなってきたところに、どうすれば勝つことができるか、チームで話しあった。投げ方、近くにいる子に狙いをつけるなど。

・ 働きかけのねらい

一人遊びや少人数での遊びが多かったので、クラス全体やたくさんのお友達と同じ遊びをすることで、お互いに協力をすることや、お互いの気持ちを分かろうとすること、同じ達成感を味わうことで友情の絆を強める。

・ 成長した幼児・児童の姿

最初のころは、ルールや約束事が守れず、ボールが当たってしまうとやらなくなってしまう子や個人プレーばかりで、自分のことしか考えられない子供が多かった。毎日やっていると、投げ方や受け方がうまくなり、楽しさが分かってきた。次第に張り切って参加するようになり、チームでの話し合いも要を得たものになって、互いにアドバイスをしたり、友達を励まし褒めるような言葉が聞かれるようになった。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

クラス全体で取り組んだことで、みんなで共通の理解ができた。個々で遊んでいたら気づけないお友達の意見や気持ち分かり、コミュニケーションをとろうとする経験になった。

課題としては、ボールを投げるのが苦手だったり体の動きの鈍い子や消極的な子は適切なフォローが必要。勝ち負けがある遊びなので、勝てばうれしいが負ければ悔しいので、勝ち負けにこだわりすぎないように注意したい。



R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) 発表会に向けての声劇活動

園・校名 幼保連携型認定こども園 岡田幼稚園

	幼児期の教育 (5歳4月～)
○	接続期①:アプローチ (5歳10月～)
	接続期②:スタート (第1学年1学期)
	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

・ 概要

声劇の内容や、役決め等をみんなで話し合っで決めたり、台詞や歌、動きも互いに相談しながら進めて取り組んでいる。

・ 教師・保育士の具体的な働きかけ

- 子どもたちの日常の遊びや生活の延長にあることを意識し、子どもの思いを尊重する働きをする。
- こどもたちがアイディアを持ち寄って認め合い、受容的な雰囲気づくりに努める。
- 皆で声を揃えるため、人の話を聞くことができるような声かけをしていく。

・ 働きかけのねらい

- 友だちと同じ目標を持ち、団結してやり遂げようとする。
- 劇を通して互いに思いやりをもち、関係を深めていく。
- 友だちの意見を聞いたり、自分の思いやアイディアをだしたりしながら劇作りに取り組んでいく。

・ 成長した幼児・児童の姿

- 初めは緊張しながらも、人前に立ち徐々に表現することの楽しさを味わうことができた。
- 子どもたちが一つの劇を完成させるため、自ら考え友だちと言葉で伝え合い気持ちを認め合うことの大切さを知ることができた。
- 練習の過程で子どもたち同士、互いに認める温かい言葉、失敗した時の励ましの言葉など道徳性も芽生えた。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

健康な心と体	○ 自立心	○ 協同性	○道徳性・規範意の芽生え	○社会生活との関わり
○思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	○言葉による伝え合い	○豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

- ・ 協同性を育み、他者を認めることができた。
- ・ 気持ちを相手に伝え、共有し、同じ目標に向かい団結し、達成感を味わうことができた。

課題 物語なので子どもの自由な表現と発想に限度があると感じた。



R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) 給食当番

園・校名 認定こども園 泉の森川越

【活動内容】

- 概要
 - ・5月のGW明けから、エプロン・三角巾・マスクを着用して給食の盛り付けを行う。
 - ・週替わりで5人をお願いし、毎日自分たちで話し合いどの盛り付けを担当するか決める。
(主食・主菜・副菜・デザート・お茶)(汁物は保育者が担当)
 - ・給食を自分のグループに配る、「お当番」と被ってしまったら、同じグループの子に配膳をお願いする。
 - ・給食当番に欠席の子がいたら、それぞれお茶以外を担当し、自分が担当した盛り付けが終わり次第、お茶を配る。
- 教師・保育士の具体的な働きかけ
 - ・毎週月曜日の朝の会で、今週の給食当番を発表する。
 - ・給食当番が円滑に準備に取り組めるよう、主活動後の排泄や手洗いは、給食当番の子から行うよう促す。
 - ・全員がエプロンに着替え、準備をしているか確認する。
 - ・担当の話し合いで揉めている様子があれば、見守りつつ助言する。
 - ・盛り付けの量が適量ではない時は、声をかける。
- 働きかけのねらい
 - ・見通しを持って取り組む。
 - ・給食当番の活動に対し、期待を持てるようにする。
- 成長した幼児・児童の姿
 - ・ Tongue やしゃもじを正しく持てるようになった。
 - ・自分達で「給食当番だよ!」と声を掛け合ったり、欠席の子がいたら保育者に言われなくてもお茶を配る姿が見られた。
 - ・給食を配膳するお当番とも、「これ持って行って!」と声を掛けたり、「それ量多くない?」と声を掛けられたりと、互いに活動を全うしようとする声掛けが増えた。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。)

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

- ・給食当番活動は、就学に向けて必要な活動であると思うし、子ども達も4月からとても楽しみにしていて、毎回意欲的に取り組む姿が見られる。
- ・「1番になりたい」と思う子が多く、早く終わらせようと慌てて食器を落とす事も時々ある為、この活動において何が大切かをその都度伝える必要がある。



R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) 年賀が用字真を探ろう。

園・校名

芳野台こども園

	幼児期の教育 (5歳4月～)
○	接続期①:アプローチ (5歳10月～)
	接続期②:スタート (第1学年1学期)
	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

- 概要 約200cm×120cmの大きな紙に描かれた「じ」と
謹賀新年の文字をマーカーを使い涂る。
- 教師・保育士の具体的な働きかけ
 - 大きな紙に「じ」と文字を書いておいて、自立した働きかけはしていない。
 - 活動のきっかけも子どもたちから「もうすぐ2025年だね」という会話からだった。
- 働きかけのねらい
 - 子どもだけ保育者が介入することなく子どもたちだけで完結してほしいという思いから、
子どもたちの相談を重視し、見守ることを意識した。
- 成長した幼児・児童の姿
 - どうすれば紙から出ずに色を塗ることができぬか、どうが塗れていないのか、何色なら
見栄えがいいのか、子ども同士で相談し決めていくことができた。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の 芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・ 生命尊重	数量や図形、標識 や文字などへの 関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

10月に読んだ絵本に「段ボールや牛乳パックで家をつくる描写」があった。クラスでもやってみよう、
たくさん物入れや集める活動に移行しようと考えていた中で、その前にみんなが協力して作る紙あき
で遊んでいた。子ども同士でコミュニケーションも盛んで、話したり、笑ったり楽しい活動にたづな
づな。その反面、能動的に参加できず受動的に参加する子差が顕著であり、保育者の働きかけ
を改善し、クラス全員が積極的に取り組めるように工夫する必要があった。



R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) 話し合うことで育まれた力

園・校名 南古谷保育園

☐	幼児期の教育 (5歳4月～)
	接続期①:アプローチ (5歳10月～)
	接続期②:スタート (第1学年1学期)
	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

・ 概要

年長児の活動や行事の中で、どのように進めていくか等の内容を子ども達に話し合っ
て決めてもらい、意欲的に楽しく取り組めるようにする。

・ 教師・保育士の具体的な働きかけ

- 話し合いの時間を設け、全員やグループごとで子ども達に決め事をしてもらう。
- 普段自分の意見を隠してしまう子も意見を発表できるよう、保育士が仲立ちをする。
- 意見が分かれた時にどうしていくかも、相談したり考えられるようにしていく。

・ 働きかけのねらい

- 自分の意見を持ち、相手の意見にも耳を傾けられるようにしていく。
- 相手の意見とどのように折り合いをつけていくか考える経験をしてほしい。
- どのように伝えたら相手に気持ちが伝わるか、言い方や方法を知る。

・ 成長した幼児・児童の姿

- 自分の意見を伝えながら、「相手の意見もいいな」と思った時に、自然と子ども達から
折衷案が出るようになった。
- 意見が通らなくても、全員が納得して物事に取り組めるようになった。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の 芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・ 生命尊重	数量や図形、標識 や文字などへの 関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

相手の立場に立って物事を考えてみることの最初の一步を踏み出すことができました。
まだまだ多面的に物事を捉えることは難しい年齢ですが、相手の気持ちも聞くことの
大切さを継続して伝えていきたいです。

R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) リレーの取り組みを通して

園・校名 古谷第二保育園

○	幼児期の教育 (5歳4月～)
○	接続期①:アプローチ (5歳10月～)
	接続期②:スタート (第1学年1学期)
	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

- 概要
 - ◎運動会のリレーの取り組みを通して、友だちの気持ちをわかろうとする。
 - ◎友だちと協力をし、最後まで走り切ることの達成感を味わう。
- 教師・保育士の具体的な働きかけ
 - ◎こどもから、走り方やバトンパスについて、良い発言が出た時には他の子にも伝えていくようにした。
 - ◎色々なメンバーで走る経験が出来るように機会を設けた。
- 働きかけのねらい
 - ◎走り方やバトンパスなど友だちの良いところを伝え、他の子たちも実践する中でお互いに高めあえるようにする。
 - ◎チームや順番決めの際、自分たちで考えて決めることで意欲を高める。
- 成長した幼児・児童の姿
 - ◎最初の頃は、転んだり負けるからやりたくないという子もいたが、みんなですらうなら良いか考え、練習する姿が見られるようになってきた。
 - ◎順番決めでは、自分が走りたい順番があり、揉めることもあったがチームが勝つことを考えて決める姿もあった。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

- ・話し合いの場では、相手の思いを受け入れることが難しいこともあったが、相手やチームの事を考える姿が多く見られるようになった。
- ・当日、両チームとも諦めず最後まで走りきることができ、負けたチームも笑顔で話す姿があった。
- ・今後も様々な形のリレーを楽しむ中で、友だちとの関係を深めていきたい。

R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) 運動会の練習を通して

園・校名 南古谷第二保育園

☐	幼児期の教育 (5歳4月～)
☐	接続期①:アプローチ (5歳10月～)
	接続期②:スタート (第1学年1学期)
	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

- 概要
 - 運動会の練習(跳び箱や縄跳び等)をする中で、友だちの頑張る姿を受け止めていく
 - リレーでは2つのチームにわかれて、同じチームの友だちと話し合い協力して取り組む
 - 集団リズムを取り入れていく
- 教師・保育士の具体的な働きかけ
 - 1人ひとりの頑張っている姿を言葉にして認めていく
 - みんなで一緒に頑張ろうと思える雰囲気をつくっていく
 - リレーではチームごとの作戦会議を大事にしていく
- 働きかけのねらい
 - 進級してしばらく、相手の気になる部分に目が行きがちだったので、自分を認めるだけでなく他者も認めていけるようにしていく
 - 1人ではできないこともみんなとならできた・頑張れたという経験をする
 - 集団で過ごすことの楽しさを感じられるようにしていく
- 成長した幼児・児童の姿
 - 練習をしていく中で、自分の「できた!」だけでなく友だちの「できた!」にも目が行くようになり一緒に喜んでいる姿があった
 - 互いに励まし合いながら取り組むようになった
 - 普段の生活でも相手の良いところを見つけられるようになり、相手を受け入れようとする姿がでてきた

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。)

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

- 《意義》保育者が率先して一人ひとりを認めていく言葉がけをしていくことが大切だと改めて感じた
- 《課題》就学に向け、自信をつけながらも友達と過ごす楽しさを感じられるよう活動を考えていきたい

R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) 野菜作り

園・校名 古谷保育園

【活動内容】

・ 概要

- みんなで相談し、春と秋の育てる野菜を決める。
- 畑を耕し、苗の購入や種まきをしたり、友だちと協力して水やりなどのお世話を行う。
- 野菜の生長を観察、気づいたことを伝えあう。
- 収穫した野菜をみんなで味わう。

・ 教師・保育士の具体的な働きかけ

- 野菜や草花の図鑑、絵本を本棚に用意し、野菜をイメージできる環境を整える。
- こどもが主体となり、自分の好きな野菜、育ててみたい野菜を友だちと話し合う時間を作る。
- 野菜の生長の気づきや発見、収穫する喜びを共有する。
- 野菜がたくさん収穫できた際は、自分たちで持ち帰るだけでなく、給食室に頼んで調理していただき、他クラスにも食べてもらう。おすそ分けをする。

・ 働きかけのねらい

- 自分の思いを安心して伝え、友だちの思いを聞く時間を作り、話し合いの経験をする。
- 自分たちで育てた野菜の成長を喜びあい、発見を楽しむ。
- 収穫した野菜をみんなで味わう。おすそ分けをして食べてもらう、喜んでもらう経験から自信につなげていく。

・ 成長した幼児・児童の姿

- 最初はジョウロの数が少ないため、順番でトラブルになることもあったが、少しずつ友だちに声をかけて順番を決める姿が出てきた。
- 自分が作ったものを誰かに食べてもらえる喜びを知り、友達を意識するようになった。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

- ・ 全体的に月齢が低く、まだ自分中心だったクラスだったが、「○○くんがおいしいって言ってくれた」「喜んでくれた。また作りたい」と友だちが喜んでくれたこと、誰かから感謝を言われたことに喜びを感じ、自分以外の他者への意識を持つことができた。

R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) ひまわり組の約束～年長組になって～

園・校名

芳野保育園

☐	幼児期の教育 (5歳4月～)
☐	接続期①:アプローチ (5歳10月～)
☐	接続期②:スタート (第1学年1学期)
☐	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

・ 概要

子どもたちに「一年間どのように過ごしたいか?」を聞き、話し合いを行い、目標としてクラスに掲示する。

- 目標 ①皆に優しくする。 ②お手伝いをする。
③先生に怒られないようにする。 ④皆で仲良く楽しくする。

・ 教師・保育士の具体的な働きかけ

子どもの言葉を拾い、それに対して、応答しながら内容を具体的にする。
その後揉め事等があった時に、目標へ立ち返り、話し合いを働きかける。

・ 働きかけのねらい

年長組として、どのように過ごしたいかを保育士や友だち同士で知る。
主張が強い子も弱い子もいる中で、皆がそれぞれの話を聞く機会をつくる。

・ 成長した幼児・児童の姿

運動会の組体操では、一致団結して、“皆同じ思い”と思いながらやり遂げた。
マイペースな子も周りを気にしながら行動することが、少しずつ出来るようになった。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

意義 あまり自分の思いを言えなかった子が言えるようになった。出来ない事が友達パワーで出来るようになってきて良かった。

課題 言い合いが多くなったので、それぞれの思いをしっかりと聞いていくこと。

R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) 芋掘り活動を通して農家の人や友達との交流を深める

園・校名 はるかぜ保育園

	幼児期の教育 (5歳4月～)
○	接続期①：アプローチ (5歳10月～)
	接続期②：スタート (第1学年1学期)
	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

<概要>

- ・公共交通機関を使って畑まで移動し、農家の方と交流しながら芋掘りをする。

<教師・保育士の具体的な働きかけ>

- ・畑では農家の方に「ありがとうございました。」「お願いします。」など挨拶をするように伝えた。
- ・芋掘りを通して、掘ったものを見せ合ったり、一緒に作業する楽しさを味わったりできるように子ども達のコミュニケーションのきっかけになる仲立ちをした。

<働きかけのねらい>

- ・食物の育ちの過程を農家の方から学ぶことで食物への興味、関心を深める。
- ・農家の方の話を聞き、作ってくれていることに感謝の気持ちを伝える。
- ・友達と協力して一つの事に取り組み、掘れた時の喜びや発見を共有する楽しさを味わう。

<成長した幼児・児童の姿>

- ・友達と協力し、集団で気持ちを共有し合う姿が増えた。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

課外活動をする中で地域の方と交流を深めたり、友達と新しい発見や喜びを共有したりすることで発展し育める10の姿も数多く該当すると感じたので、様々な人や環境に触れるのは大切だと思った。



R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) トリックオアトリート～地域との関わり～

園・校名 **伊佐沼すまいる保育園**

	幼児期の教育 (5歳4月～)
○	接続期①: アプローチ (5歳10月～)
	接続期②: スタート (第1学年1学期)
	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

・ 概要

10月31日「ハロウィン」の日に、仮装を楽しんだり、ご協力いただける地域の方の家を周り「トリックオアトリート」と言って、お菓子をもらったりする行事を通して地域の方との交流を楽しむ。

・ 教師・保育士の具体的な働きかけ

- ・ ハロウィンについて子どもたちに伝える。
- ・ お菓子をもらう時、もらった時、地域の方と会った時になんといいかを聞いてみる。
- ・ 仮装やバッグを作るにあたり、必要な材料を聞き、揃えておく。

・ 働きかけのねらい

- ・ 自分たちの考えた衣装やバッグを好きな時に作ることが出来るようにする。
- ・ ハロウィンを理解したうえで楽しむことができるようにする。
- ・ 自分の言葉で地域の方に伝えられるようにする。

・ 成長した幼児・児童の姿

- ・ 年下の友だちに、伝える言葉を優しく教える姿があった。
- ・ 地域の方に自ら挨拶をしたり、作った衣装を見せながら頑張ったところなどを自分の言葉で伝えたりしていた。
- ・ 仮装やバッグ作りの制作を通して、自分が作りたいもののイメージや作ったものを友達や保育者に伝えたり、他者の表現を真似することで表現力を育んだりしている。
- ・ お礼の手紙を届けることになり、ひらがな表を見ながら手紙を書く等、活動が広がった。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

意義：ハロウィンの行事は、地域の方と触れ合い、交流することができる良い機会になっている。行事を通して、子どもたちが地域と関わり、子ども自身の成長と地域の活性化に繋がってきたい。

課題：園周りに畑や田んぼが多く、家が少し離れていることから、普段の散歩でのルートで通ることが少なく、普段から交流する機会があまりないのが現状。

R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) 自分の気持ちを言ってみよう!

園・校名 分園 星の子第2保育園

☐	幼児期の教育 (5歳4月～)
☐	接続期①:アプローチ (5歳10月～)
	接続期②:スタート (第1学年1学期)
	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

- 概要
 - 毎日の帰りの会で、楽しかったこと・頑張ったことなどを発表する。
 - 椅子取りゲームなどを行った後に、クラス・なまえ・今の気持ちを発表する。
 - 困っている時には、自分で言葉にして伝える。
 - 運動会の閉会式では、クラス・なまえ・今の気持ちを発表する。
 - 発表している子話を聞く。
- 教師・保育士の具体的な働きかけ
 - 人前で話すことが得意な子と苦手な子がいるので、発表することが嫌にならないように、その子に合わせてスモールステップを心掛けた。
 - 一人ひとり感じていることは違うので、何を言っても間違えではないことを伝えた。
- 働きかけのねらい
 - スモールステップで行うことにより、出来た!という自信になり次への意欲へとつながった。
- 成長した幼児・児童の姿
 - みんなの前で話すことが苦手だった子も、運動会で自信を持って自分の気持ちを言うことが出来た。
 - 帰りの会で日々発表することにより、友だちが発表している時にはきちんと聞くという姿勢も育っていった。
 - 友だちとのトラブルの際、相手に言葉で気持ちを伝えることにより、子ども同士で解決する力がついた。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の 芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・ 生命尊重	数量や図形、標識 や文字などへの 関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

- 自分の気持ちをしっかりと相手に伝えられることができ、相手の話を聞くことができる。
- 友だちとの関わりの際、トラブルがあっても他児が仲裁するなど子ども同士で解決する力がつく。
- 行事で大勢の前での発表は子ども達の自信につながった。
- 帰りの会での発表は、聞き手の集中力に応じて人数や仕方に変化が必要。



R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) ルール・約束事を自分達で考え決める

園・校名 どんぐりの森保育園

☐	幼児期の教育 (5歳4月～)
☐	接続期①:アプローチ (5歳10月～)
☐	接続期②:スタート (第1学年1学期)
☐	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

・ 概要

年長児になり自分達で考えて行動する場面が増えてきた一方で、意見のすれ違いによるトラブルも多くなってきた。トラブルが起きた時や何か行動する時に子ども達だけで話し合う場を設けた。

教師・保育士の具体的な働きかけ

- ・途中で『その意見いいね!』など自分達で生み出した内容に対して共感をしてあげる。
- ・会話に入れない子に対してさりげなく参加できる声かけをしていく。
- ・会話の目的がそれてきたらさりげなく修正していく。

・ 働きかけのねらい

- ・自分の意見だけを通す子・逆に他児に頼って意見を言わない子などいるので全員の意見が聞けるそして自分の言葉として言えるよう促す他児の気持ちを汲み取る。
- ・クラスの問題点としてみんなが認識していく。

・ 成長した幼児・児童の姿

- ・自分の考えを言葉で伝えようとする姿が増えてきた。
- ・友達の意見を聞く力がついた。
- ・友達とトラブルがあった時に話し合う姿が増えた。
- ・状況を把握する力がついた。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

健康な心と体	☐ 自立心	☐ 協同性	道徳性・規範意の 芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・ 生命尊重	数量や図形、標識 や文字などへの 関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

この活動の意義は、話す・聞く力を育むだけでなく考えることでより友達の関わりが増えて理解し、考えを受け入れることができるようになったことです。課題としては、まだ理解力の差があったり、活動や発言に接触的すぎる子・消極的な子に対して自主的に動けるようにどのようにサポートしていくかが課題だと思います。

R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) 他者との関わりを深める生活科の実践

園・校名 川越市立古谷小学校

	幼児期の教育 (5歳4月～)
	接続期①:アプローチ (5歳10月～)
○	接続期②:スタート (第1学年1学期)
○	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

・ 概要

実践1「がっこうだいすき」(入門期)

2年生の「学校を案内しよう」の実践で、学校を案内してもらい、2年生と交流しながら活動した。自分達も学校を探検したいと意欲をもち、1年生の学校探検につなげた。事前に、グループでどこを回るのか、何を聞くのかを話し合わせた。特別教室の探検では、先生方にインタビューすることを通して、学校で働いている人との関わりを持った。

実践2「たのしいあきいっぱい」(2学期から3学期始め)

秋の自然に触れ、色づいた葉やどんぐりの実などを使っておもちゃを作り、友達と交流しながら遊んだ。3学期に、保護者の方や近くの保育園、幼稚園の園児を招待し、披露する予定になっている。2年生からは、「おもちゃフェスティバル」に招待され、遊びのコーナーの作り方などを学び、自分たちも楽しい会を開きたいと意欲を持っている。

・ 教師・保育士の具体的な働きかけ

- ①実践1・2ともに、2年生担任との協力で、探検の前の事前遊びや働きかけ(名札や招待状を届けるなど)をしてもらった。1年生からもお礼の手紙を届けた。
- ②実践1では、友達と一緒に回る時のルールの確認、教室を見学する際のインタビューの仕方などを事前に指導した。また当日の関わり方も、その都度支援した。
- ③実践2では、自分のおもちゃで遊ばせてあげる時に、やり方を教えてあげることなどを指導した。2年生の会から、自分達も工夫ができるか話し合いをさせたい。

・ 働きかけのねらい

学校には、同級生の他にたくさんの上級生や教職員がいる。周りの人達と多くの関わりが持てるように、グループや他学年などとの多様な関わり場を作り、実際に活動しながら関わり方を学ぶことが必要であると考えている。

・ 成長した幼児・児童の姿

- ①入学してすぐは、友達に話しかけることができない児童や自分の言いたいことが話せない児童も見られたが、進んで声をかけるなど、人への関わり方が上手になってきた。
- ②生活科見学では、動物園の見学でグループ行動を取り入れた。互いに声を掛け合い、仲良く見学することができた。中心になって動ける児童も見られている。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。)

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり 生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

- 縦の交流の活動は、上の学年の児童の姿から人との関わりを学ぶよい機会であり、児童の成長にもつながる。担任同士の連携は不可欠であるが、1年生にとっても2年生にとっても子ども達の成長につながるという共通のねらいを持つことで、意義のある実践になると考える。
- 年間を通して2年生から学び、幼稚園・保育園児に伝えるという流れで実践できるように年間指導計画を整えられればと思う。

R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) あきの おもちゃを つくろう

園・校名

川越市立牛子小学校

幼児期の教育
(5歳4月～)

接続期①:アプローチ
(5歳10月～)

接続期②:スタート
(第1学年1学期)

○ 小学校教育
(第1学年2学期～)

【活動内容】

・ 概要

- 秋の自然物を使って楽しく遊びたいという思いをもち、おもちゃ作りをする。
- 友達と一緒に作ったり遊んだりしながら、材料や動き方・作り方等を工夫する。

・ 教師・保育士の具体的な働きかけ

- 単元の前半は、同じ種類のおもちゃを作っている児童同士が近くで作業できるよう、場の工夫を行った。
- 材料や作り方を工夫できるように、材料と時間を十分に確保した。
- 友達と相談したり、使うものや素材を変えたりしながら、自分の作りたいおもちゃを諦めずに作る姿を称賛した。
- 遊びながらおもちゃが改良されていくことを称賛し、工夫することの面白さを実感させた。

・ 働きかけのねらい

- 友達同士で相談したり、協力して作業したりする中で、「友達と一緒に作れた。」「一人では難しかったけれど、友達と一緒にならできた。」という成功体験を味わわせる。
- 最初に考えていた自分の思いを形にする時間を十分に確保することで、おもちゃを発展させたり、違う種類にも挑戦したりする気持ちが湧いてくるようにする。
- おもちゃを工夫し、より楽しいおもちゃにすることで「次は友達にも遊んでほしい」「友達のおもちゃで遊んでみたい」という興味関心を高める。

・ 成長した幼児・児童の姿

- 教え合ったり、意見を出し合ったりしながら、試行錯誤して活動に取り組む中で、友達と活動する楽しさを味わえた。
- 友達と一緒に遊んだり作ったりする時間を十分に確保できたので、自身の充足感が満たされ、おもちゃの紹介では、こだわりをもって自分の言葉で説明ができた。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

- 友達と関わりながら活動することで、高め合い、協働性を養うことができた。
- 休み時間や他教科での学び合いとは違う人間関係が見られた。
- △関係性が固定されないよう、様々な場面での関わり合いを取り入れる。

R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) かたちあそび(算数)

園・校名 川越市立南古谷小学校

幼児期の教育
(5歳4月～)

接続期①:アプローチ
(5歳10月～)

接続期②:スタート
(第1学年1学期)

○ 小学校教育
(第1学年2学期～)

【活動内容】

・ 概要

児童が、各家庭から持参した立体図形(直方体や、立方体、円柱)を使い、いろいろなものを作る。

持参した立体物をグループの友だちと共有し、協力していろいろなものをつくる。

・ 教師・保育士の具体的な働きかけ

持参した立体物には、すべて記名させ自分のものは必ず戻ってくることを伝え、安心して活動に入れるようにする。

自分が持参したものだけでは、大きいものはできないことに気付かせ、グループ活動の良さを感じさせる。

どんなものをつくるのかの大まかな「お題(例:長いもの、高いもの、転がるもの、等)」を与え、お題に合うものを児童にたくさん想起させて、グループで話し合わせる。

積み上げるときには、みんなで見合っって傾きや位置を調整させる。

・ 働きかけのねらい

他者との関わりの中で、自分だけではできないこと、自分だけでは思いつかなかったことがあるということを体感させたい。そして、友だちと一緒に活動することが楽しく、自分の成長につながっていることに気づかせたい。

・ 成長した幼児・児童の姿

「それいいね」、「ありがとう」、「すごいね」、「やった、やったあ」と、お互いに前向きな言葉かけが活動の中で増えていった。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。)

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

それぞれの思いつきを発言し合ったり、協力して積み上げたものを支えたり、できたことを喜び合ったりしており、他者との関わる良さを体感できたことに意義があると感じる。

自己中心的に指示をしてしまう児童や、積極的に発言できない児童への支援について、更に工夫していく必要がある。



R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) たのしいあきいっぱい

園・校名 川越市立 芳野小学校

幼児期の教育
(5歳4月～)

接続期①: アプローチ
(5歳10月～)

接続期②: スタート
(第1学年1学期)

○ 小学校教育
(第1学年2学期～)

【活動内容】

○概要

秋の自然を見つたり遊んだりする活動を通して、秋とその他の季節との違いや特徴を見つたり、遊びや遊びに使うものを工夫して作ったりして、秋の自然の様子や夏から秋への変化、それを利用した遊びの面白さに気付くそれとともに、季節の変化を取り入れ自分の生活を楽しんだり、みんなと楽しみながら遊びを作り出そうとしたりすることができるようにする。また、学級活動で、「秋のおもちゃまつりをしよう」について話し合い、友達と作ったおもちゃを共有し、クラスの仲が深まるよう交流する時間を設ける。

○教師・保育士の具体的な働きかけ

- ・校庭や公園などで葉や実を使って遊んだ時のことや、幼児期の経験などを想起する場面で「秋のおもちゃをつくりたい」という児童の思いや願いを引き出す。
校庭や地域で見つけてきたもののおもちゃを作り、お試しコーナーを作る。
- ・作ったおもちゃをさらに楽しくする工夫について、グループで話し合う。
- ・作ったおもちゃを紹介し合って、クラスの友達と交流する時間を設ける。

○働きかけのねらい

- ・安全に作ったり、遊んだりできる環境を整えるとともに、試行錯誤できる時間や場を確保することで、友達と教え合い、励まし合いながら納得のいくおもちゃに近づけるようにする。
- ・作ったおもちゃを友達に楽しんでもらうために、作り方や遊び方を工夫できるようにする。
- ・学級活動を通して、友達におもちゃの遊び方を説明したり、他の友達が作ったおもちゃを体験したりすることで、それぞれのよさを実感できるようにする。

○成長した幼児・児童の姿

- ・一人一人の児童が自分の思いや願いを実現できるように、試行錯誤しながら粘り強くおもちゃを作ろうとすることができた。
- ・他者と関わり合い学び合う中で、比べたり試したりしながら自分の考えを深められた。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）



健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

○友達とおもちゃまつりを計画、実施することで、お互いの思いや考えを共有しながら取り組むことができ、自分の考えを深めることができた。
△クラスの中だけで交流したので、他クラスや他学年の交流をして、いろいろなおもちゃを見る活動があってもよかった。

3 班

- | | |
|---|----------------|
| 1 運動会 鼓笛隊 | (あおば幼稚園) |
| 2 お泊り保育での宝探しゲーム | (川越なかよし幼稚園) |
| 3 ひよこ会(おゆうぎ会)に向けて | (ふくはら幼稚園) |
| 4 クラスを越えた他者との関わり | (認定こども園ふじま幼稚園) |
| 5 作品展でのグループ製作を通じた他者との関わり | (藤原白百合幼稚園) |
| 6 お当番活動・お手伝いを通して | (新河岸幼稚園) |
| 7 セタ飾りづくりと、それに伴う保育者の援助の過程 | (高階幼稚園) |
| 8 運動会のリレーへの取り組み | (高階第二保育園) |
| 9 お店屋さんごっこ | (貴精保育園) |
| 10 力を合わせてバトンをつなごう | (高階第三保育園) |
| 11 キャンプごっこで異年齢交流 | (高の葉保育園) |
| 12 水中の生き物を育てよう | (高階すまいる保育園) |
| 13 ばら会議を通して | (高階保育園) |
| 14 お店屋さんごっこ | (さくらんぼ保育園) |
| 15 モンテッソーリ教育 | (音羽の森保育園) |
| 16 思いやりの心を育てよう | (まーぶるきらり保育園) |
| 17 人と人とのつながりを大切にしよう 生活科
「たのしいあきいっぱい～いっしょにあそぼう～」の活動を通して | (高階南小学校) |
| 18 生活科「あきまつり」 | (高階小学校) |
| 19 図工造形遊び「カラフル いろみず」 | (寺尾小学校) |
| 20 ほっこりタイム(スタートカリキュラム) | (福原小学校) |
| 21 児童の気づきを高める生活科の授業実践 | (高階西小学校) |
| 22 図画工作「スルスル ビューン」 | (高階北小学校) |



川越市マスコットキャラクター ときも

R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～
(実践名) 運動会 鼓笛隊

園・校名 あおば幼稚園

○	幼児期の教育 (5歳4月～)
	接続期①: アプローチ (5歳10月～)
	接続期②: スタート (第1学年1学期)
	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

- 概要
 - 本園では年中組から鍵盤ハーモニカを行ない、年長組になると毎年学年合同で、運動会に鼓笛隊を発表している。
 - 園児達に、5月中旬から合奏で使用する楽器を紹介し、楽器を決め、1学期は各パートで、2学期は学年全体で練習を行なった。
 - 運動会当日は、保護者・観客の前で鼓笛隊を発表し、各々が役割を果たした。
- 教師・保育士の具体的な働きかけ
 - 鼓笛隊を行なうには、一人ひとりの役割(合奏)の重要であることを伝え、練習を行うようにした。
 - 各パート練習、特に合同練習では周りと合わせる意識を持たせ、良い点・改善すべき点を全員に伝え、練習毎に改善していけるようにした。
- 働きかけのねらい
 - 一人ひとりが意識を持って演奏を行なえるようにする。
 - 全員で一つの目標に向かい、練習をし、目標を達成することで、達成感・有能感を得ることが出来るようにした、また全員で達成したことで、更に絆が深まるようにした。
- 成長した幼児・児童の姿
 - それぞれに任された役割(楽器)を、責任をもってやり遂げることで一人一人の重要性を理解した
 - 苦手なことや難しいことでも、協力し全員で行なっていくことで、努力をして乗り越え、達成したことで、自信につながった。

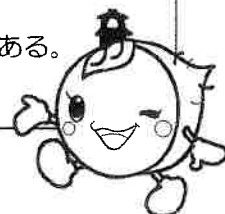
※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

意義：集団で1つの物事に取り組むことで、集団の中での個人の役割の重要性和共に、仲間意識を高めることが出来た。

課題：個人により成長が違いため、個々に応じ、寄り添いながら保育・練習を行う必要がある。



R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) お泊り保育での宝探しゲーム

園・校名

川越なかよし幼稚園

☐	幼児期の教育 (5歳4月～)
☐	接続期①:アプローチ (5歳10月～)
☐	接続期②:スタート (第1学年1学期)
☐	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

・ 概要

- 本園の年長児は、毎年夏休みにお泊り保育である「冒険サマーキャンプ」を行い、2日目にはグループに分かれて宝探しゲームを行う。
- 宝探しゲームは、クイズに正解してお宝の隠し場所のヒントをもらい、グループのみんなで協力しながらお宝を見つけ出すという内容である。
- 活動を通してみんなでアイデアを出し合ったり、お互いを思いやったりすることの大切さを学ぶことが出来た。

・ 教師・保育士の具体的な働きかけ

- 移動するときには、グループ全員で一緒に行動するように伝える。
- 子どもたちの性格なども考慮してグループ分けを行う。

・ 働きかけのねらい

- お互いの意見を受け止め合いながら、ゴールを導き出せるようにする。

・ 成長した幼児・児童の姿

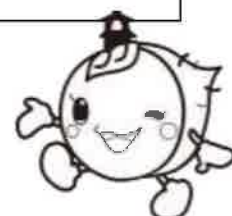
- はじめはお宝を早く見つけたい気持ちを優先し、グループのお友だちをおいていってしまったり、意見の衝突からけんかになってしまったりすることもあったが、ゲームが進むにつれてそれぞれの意見にしっかりと耳を傾けることの大切さに気が付き、お互いを思いやる気持ちの大切さを学ぶことが出来た。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

- ・ 他者と協力し、思いやる気持ちの大切さに気付くことが出来た。
- ・ 各々の得意なことが活かせるような内容にするとより良い活動が出来る。



R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) ひよこ会 (おゆうぎ会) に向けて

園・校名 ふくはら幼稚園

	幼児期の教育 (5歳4月～)
○	接続期①: アプローチ (5歳10月～)
	接続期②: スタート (第1学年1学期)
	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

- 概要
 - ①ひよこ会 (おゆうぎ会) に向けて、たてわりグループでオペレッタに取り組む。
 - ①グループ決め、役決めを子どもたちが行う。
 - ②グループごとに練習する。
- 教師・保育士の具体的な働きかけ
 - ①2種類のオペレッタのあらすじを絵本、DVDなどを活用して伝え、導入する。(全体)
 - ②1人ひとりが、その役のリーダーであることを伝える。グループ決め、役決めは、子どもたちが話し合って決め、保育者は見守る。(年長)
 - ③オペレッタの踊りやポーズは、年長児に案を出してもらい取り入れる。(年長)
- 働きかけのねらい
 - ①楽しみながら練習に参加し、興味・関心を高められるようにする。
 - ②自分たちでグループ決め、役決めをすることで1人ひとりが自分の役割を考え、練習に取り組めるようにする。
 - ③保育者が決めるのではなく、一緒に考えて作り上げることで自主性や意欲を高められるようにする。
- 成長した幼児・児童の姿
 - ・たてわりでの活動を行う中で、同じ役の年中・年少児の手をつなぎ、優しく教えてあげる姿が見られた。
 - ・「自分がリーダーだから」と責任ある行動や積極的な姿勢が見られるようになった。
 - ・オペレッタ以外にも、年中・年少児を気にかけて、一緒に遊んだりする姿が多くなった。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 (見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。)

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

- 〈意義〉 異年齢集団での活動の中で、年長児の自主性や積極性を高めるとともに、年下の園児への思いやりや優しさなど豊かな心を育てているところに意義がある。
- 〈課題〉 他のクラスの保育者と園児への働きかけを共有することとクラス活動との調整をすることが課題となる。



R6幼保小実践事例集：「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) クラスを越えた他者との関わり

園・校名 認定こども園 ふじま幼稚園

☐	幼児期の教育 (5歳4月～)
	接続期①：アプローチ (5歳10月～)
	接続期②：スタート (第1学年1学期)
	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

・ 概要

行事に向けて製作活動、練習の見せ合いを行う
様々な子ども達との関わりを増やす(自由遊び)

・ 教師・保育士の具体的な働きかけ

- ① 他クラスの園児との関わりが増えるよう、学年での自由遊びを月案に組み込む
- ② 縦割りで1つの製作を計画する
- ③ 運動会や発表会の練習で他クラスや他学年の練習を見に行く

・ 働きかけのねらい

- ① 学年での自由遊び
→自分のクラスに囚われず人との繋がりを増やし、遊びの幅も広げる。また、子ども達の社会性や協調性を伸ばしていき、小学校進級に向けて人と繋がる力を育てる
- ② 縦割りで製作活動
→年長児は年下の子に自発的に関わられるようにし年上という意識を持つ様にする。又、年少・年中児は他学年との関わりを増やし、社会性を身に付ける
- ③ 運動会や発表会の練習で他クラスや他学年の練習を見に行く
→練習を見る側も見られる側もお互いに刺激になり、本番への意欲が高まる。また、年少・年中児の場合は来年への期待に繋げる

・ 成長した幼児・児童の姿

- ◎遊びが発展した。トラブルが起きた際には自ら解決しようとする姿もあった
- ◎すれ違いざまにお互いの名前を呼び合う等他クラスの子ともとの関わりが増えた
- ◎困っている年下の子に優しく教えられるようになった
- ◎発表会本番への意識が高まり、練習へ取り組む姿勢に変化が見られた

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。)

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題



R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名)作品展でのグループ製作を通じた他者との関わり

園・校名

藤原白百合幼稚園

☒	幼児期の教育 (5歳4月～)
	接続期①:アプローチ (5歳10月～)
	接続期②:スタート (第1学年1学期)
	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

・ 概要

各グループに分かれ、リーダーを中心に一つのテーマに沿って作品を製作する

・ 教師・保育士の具体的な働きかけ

苦手な子が困らないよう、それぞれの得意、不得意を考慮しグループを作る

・ 働きかけのねらい

友達と協力して作品を作る事で、友達の良さに気づき、苦手な作業を助け合う事で、協調性を養い、作る楽しさを味わう

・ 成長した幼児・児童の姿

初めは1人ひとりで製作することが多かったが、友達と意見を交換し、お互いの良い所を褒め合う中、協力する姿が見られるようになった。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

健康な心と体	自立心	☒ 協同性	☒ 道徳性・規範意の芽生え	☒ 社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	☒ 言葉による伝え合い	☒ 豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

グループ製作を通じて、協調性や想像力を養う事ができた。
しかし、グループによって進捗具合に差が出てきた為、今後は自分たちで製作の計画や順序を決め、見通したもて製作を行っていくよう働きかけていきたい。



R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～ (実践名) お当番活動・お手伝いを通して	☐	幼児期の教育 (5歳4月～)
	☐	接続期①: アプローチ (5歳10月～)
園・校名 新河岸幼稚園		接続期②: スタート (第1学年1学期)
		小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

・ 概要

- ① お当番活動として自分達の園生活の事を自分達で順番に行う。毎日数人ずつのグループで、製作の時など保育者と製作帳などを配る、給食の準備などを行う。
- ② 4月当初、預かり保育の時間、異年齢と一緒に過ごす中他学年に興味が見られず、下の子が困っていても気にしない姿や自分の思いを伝えられず、泣いてしまう姿が見られた。

・ 教師・保育士の具体的な働きかけ

- ① お当番活動を率先して行えるように援助した。
 - ・クラス内で製作の時、折り紙の折り方が分からず困っている子がいた時、「お友達に折り方を教えてあげて」などと助ける事が出来るように行動を促す言葉掛けをした。
- ② 年少児など下の子達のお着替えを手伝うなど困っている子を助けるように言葉掛けをした。その度にお手伝いをしてくれた子に対して「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えたり、手伝ってもらった子からも言葉でお礼が伝えられるように働きかけをした。

・ 働きかけのねらい

- ① お当番としての自覚を持ち、クラスの事を率先して行えるようになる。
 - ・相手の気持ちを考え、困っている子に気づき自ら助けられるようになる。他者を思いやる。
- ② 同学年だけではなく、異年齢の子に興味を持ち、優しく接したり、自らお手伝いが出来るようになる。

・ 成長した幼児・児童の姿

- ・初めは保育者に助言されて行っていたが、その度に「ありがとう」など感謝を伝えられそれが自信に繋がり、自ら助けてあげたい気持ちが芽生え、下の子のお世話を進んで自主的に行う姿が見られた。
- ・友達がお手伝いをしている姿を見て、自分もやりたいという気持ちが芽生え困っている子がいると進んで手伝う姿が見られるようになった。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

成果：友達や下の学年の子に関心を持ち困った子がいると自ら気づき助ける姿が見られるようになった。

課題：他者に対する思いやりが芽生えてきたが自分の着替えが終わっていないのに友達の事に夢中になりすぎて自分の事が疎かになってしまう事がある。



R6 幼保小実践事例集：「他者との関わり」に結び付いた実践例

園での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

七夕飾りづくりと、それに伴う保育者の援助の過程

高階幼稚園

☐	幼児期の教育 (5歳4月～)
☐	接続期①：アプローチ (5歳10月～)
☐	接続期②：スタート (第1学年1学期)
☐	小学校教育 (第1学年2学期～)

概要、保育者の具体的な働きかけ、働きかけのねらい、成長した幼児・児童の姿



生活における文字使用

願いごとを書くには文字があるといい。教えあったり保育者に尋ねたりして、自分の納得のいく内容にしていく。文字の使用に関しても、重要なのは「必要感」に基づいた自発的・主体的な行動と適切な援助である。



生活における粗大運動

高い位置に短冊を飾るため、保育者の用意した技巧台を昇り降りする。取り立てて「体操・体育」の時間を確保するのでなく、主体的な遊びの中で粗大運動が豊かに反復されることを目指す。



微細運動

短冊や飾りの設置には指先の運動を中心とした感覚統合が欠かせない。これも「指示」してやらせるのではなく、幼児の必要感から行われるよう環境設定している。教育要領における「環境教育」の具体的な表れといえる。



保育者の援助(指導)

繰り返すように、文字指導も運動指導も幼児の自発性・主体性の中で実践されなければならない。保育者は心身を一体化させるかのように生活し、陰に陽に援助する。



※ 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（関連がある姿に○）

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数値や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

【指導者から見た実践の意義と課題】

意義：願いごとを伝えあう・文字を教えあうなどの「他者の関わり」がいたるところで見られた。また、保育者に要求を伝えるといったやりとりも、自発的・主体的な生活の中で自然に行われていた。アプローチ・スタートカリキュラムに直結する姿であると考えられる。

課題：心身の発達状況は個別に異なる。特に、意欲的に生活を始められるか、うまくいかない場合に諦めず充実に向かえるか、友だちと相互に影響しあえるか、などの心理発達は進み方の差異が顕著な分野であると考えられる。「学びに向かう力」の涵養を目指すための声かけが適切であるか、「一心同体」の感覚が充分であるか、などを振り返る時間をさらに確保したい。



R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) 運動会のリレーへの取り組み

園・校名 川越市立高階第二保育園

	幼児期の教育 (5歳4月～)
○	接続期①: アプローチ (5歳10月～)
	接続期②: スタート (第1学年1学期)
	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

・ 概要

運動会のリレーの取り組みを通して友だち同士の関わりを深める。

・ 教師・保育士の具体的な働きかけ

- 初めのうちは、保育士も分かれてチームに入り、勝ったら一緒に喜び、負けたら一緒に悔しがる。その中でチームが勝ちたいという気持ちが見られた。
- バトンの受け渡しの練習を一緒にしたり、コースを大回り和小回りで大人が走って見せてどうしたら早く走れるか考える機会を作る。
- 作戦の話し合いの時は見守り、進まない時は「こんな時は早く走れたね。」と提案したり自分の思いをみんなに伝えるようアドバイスする。
- コースの内側から抜かしてラインの中に入ってしまう子がいた時にどうしたら良いか問いかけて子ども同士で話し合う機会を設ける。

・ 働きかけのねらい

- 友だちと積極的に関わり合いながら喜びや悔しさを共感し合うことで関わりを深める。
- 自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気づく。
- 友だちと一緒に取り組む中で、どうしたら速く走れるかを考え、子ども同士で伝え合い、チームで協力し合いながら、団結力を高める。

・ 成長した幼児・児童の姿

- 友だちを大きな声で応援したり喜びや悔しさを共有し、チームで団結するようになった。
- ルールを守って競い合う楽しさを感じることができた。
- 自分の思いを主張しつつも、友だちの意見を聞いて、順番を調整できるようになってきた。
- 走るのが苦手な子も友だちの声援を支えに思いっきり走れるようになった。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

- 友だちと同じ目標をもって取り組むことができた。
- リレーの活動を通して、仲間意識を高めることができた。
- 話し合いをすることで、思いを言葉で伝えたり、友だちを思いやる気持ちが育ってきた。
- 今後、様々な行事に取り組む中で、それぞれが意見を出し合いながら、仲間関係をさらに深めていけると良い。
- 友だちとのトラブルなどがあった時は、当事者だけではなく、全体で話し合ったり、子ども同士で意見を出し合えると良い。

R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) お店屋さんごっこ

園・校名 貴精保育園

○	幼児期の教育 (5歳4月～)
	接続期①:アプローチ (5歳10月～)
	接続期②:スタート (第1学年1学期)
	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

- 概要
 - 子どもたちが作った物や職員・保護者が作った品物をゲームコーナーの景品や商店街の商品にして売り子や買い物をする。店の他に実演販売形式の屋台も出した。
 - 2日間の行事でつどいの広場の利用者や0、1、2歳児クラスの保護者も参加の行事。
- 教師・保育士の具体的な働きかけ
 - 屋台、ゲームコーナーの内容、当日の店番決めや品物を作る際の役割分担、備品作り。
 - 自分たちの経験を出し合って、店員はどういうことをしているか意見を出し合った。
 - 品物や店が完成してから遊びの中で店員と客に分かれて練習をした。
 - 異年齢の子や保護者との関わり方について話し合った。
- 働きかけのねらい
 - 子どもたちの興味・関心や知識を活かして尊重できるように意見を出し合う機会を行事に向けて定期的に設け、実際の店員さんに近づけるようにした。
 - 店員をやるにあたって、ひとりひとりの役割、店やゲームコーナーの内容を実際に体験して仕事内容を全員で把握する。
 - お金は品物のやりとりは全員同じようにできないのでどのように関わるか考えて接することができるようにする。
- 成長した幼児・児童の姿
 - 子どもたち同士で店のどここの仕事をするか話し合っていて決めて店員として取り組み、互いに協力しあっていた。
 - 異年齢児には優しく丁寧に関わっていて、多いお金を返したり目線を合わせて品物を渡したりと気遣う場面も見られた。
 - 保護者も参加ということで緊張する様子も見られたが、やりとりに慣れると自信をもって大きな声で接客していた。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

- 普段関わる機会の少ない異年齢児クラスの子や職員、保護者とのコミュニケーションを図ることができた。
- 自己主張ができる子がやりたいところをやっているところも見られたので、周りの話も聞いた上で役割を決めていけることが課題だと感じた。

R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) 力を合わせてバトンをつなごう

園・校名 高階第三保育園

	幼児期の教育 (5歳4月～)
○	接続期①:アプローチ (5歳10月～)
	接続期②:スタート (第1学年1学期)
	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

・ 概要

「リレー」

運動会に向けてチームに分かれ、リレー対決をした。

何度も勝負するうちに、どうしたら勝てるのかを考え始めていた。

・ 教師・保育士の具体的な働きかけ

話し合いを通して、自分の気持ちを相手に伝えること、相手の気持ちを考えることで友だちの思いも知り、どうしたらよいか考える機会を作る。

・ 働きかけのねらい

ルールを理解し、友だちと工夫したり考えたりして一緒に活動する楽しさを味わう。
友だちとの関わりを深め、協同して遊ぶ楽しさを知る。

・ 成長した幼児・児童の姿

何度も勝負する中で、子どもたちだけで話し合いを始めたり、自分の思いだけでなく相手の思いも聞こうとする姿が見られた。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

○健康な心と体	○自立心	○協同性	○道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
○思考力の芽生え	自然との関わり・ 生命尊重	数量や図形、標識 や文字などへの 関心・感覚	○言葉による伝え合 い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

リレーはルールも分かりやすく、子どもたちが夢中になる取り組みで、話し合いも盛んに行われていた。チームのみんなで考えたことをリレーに生かした経験を今後の様々な活動につなげていきたい。

R6 幼保小実践事例集：「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) キャンプごっこで異年齢交流

園・校名 高の葉保育園

	幼児期の教育 (5歳4月～)
○	接続期①：アプローチ (5歳10月～)
	接続期②：スタート (第1学年1学期)
	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

- 概要
 - ・3～5才の縦割りグループで製作活動をする。作ったものでごっこ遊びを楽しむ。
 - ・年長児を中心に子どもたちが主体となり、テーマや内容を決める。「キャンプには何が必要?」「どんなことして遊べるの?」とイメージを広げ伝えあい共同制作に取り組む。
- 教師・保育士の具体的な働きかけ
 - ・子どもの発想を形にできるよう、廃材や用具をそろえて環境設定を行う。
 - ・「キャンプごっこ」の活動のみにとどまらず、散歩や給食時間等、異年齢交流の場を増やし緊張感を和らげる。
 - ・子どもたちが発言し合える場を積極的に設ける。
- 働きかけのねらい
 - ・異年齢交流や大集団に苦手意識のある子が小グループから徐々に活動に慣れ親しんでいけるように配慮し、安心感をもって参加できるようにする。
 - ・年長児がお手本となり教え合う中で、憧れを目標にしたり、またそれらを受けて自信へとつなげていく。
 - ・共同活動の中で相手の立場になり考えることができ、自分はできるが相手には難しいなど相手に合わせた接し方ができる。
- 成長した幼児・児童の姿
 - ・自分たちのアイディアが形になっていくことに満足感・達成感が得られ地震に繋がった。
 - ・相手に合わせた話し方・接し方が少しずつできるようになり、以前よりも自然に異年齢の子と関わる姿が見られるようになった。
 - ・自分と異なる色々な考えがあることに気付き、興味を持てるようになってきた。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

- ・自分の考えばかりを押し通そうとする子が多かったが、キャンプごっこを通し、協調性が少しずつではあるが育まれていることを感じた。
- ・行事をきっかけとした交流だけではなく、普段から生活や遊びでの交流の場を大切にしていきたい。



R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) 水中の生き物を育てよう

園・校名

社会福祉法人あゆみの会 高階すまいる保育園

	幼児期の教育 (5歳4月～)
○	接続期①:アプローチ (5歳10月～)
	接続期②:スタート (第1学年1学期)
	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

- 概要
2階テラスにビオトープを設置し、当番活動の一環として、毎日水を足したり、水中の植物を観察したりする体験を通して、生き物への興味・関心が高まり、室内での飼育活動が活発になる。
さらに視野を広げ、活動を活発化させるために、ホームセンターに魚を買いに行く。
自分達で相談してアカヒシを選び、数をかぞえ、大事に持って帰り、図鑑や絵本と比べながら観察する。
- 教師・保育士の具体的な働きかけ
「水中の生き物ってなんだろう」という問いかけから、ビオトープの観察が始まる。
生き物の様子や周辺の環境に興味・関心を持ち始めた頃を見計らって、絵本や図鑑を用意し、調べ学習の基礎となる環境を整える。
「水の中には、どんな生き物がいるか」「水の中で育つ草や花には、どんなものがあるか」「土の中で育つ植物との違いは」などの問いかけや、子ども同士の話し合いの中で、好奇心・探求心を高め、生命の不思議さを感じ、生き物を見て、その育て方など、クラス全体で試行錯誤を繰り返す。
- 働きかけのねらい
心が動く経験を通して、子どもたちが自分の言葉で感じたことを表現しながら、科学的な視点、自然への愛情、畏敬の念を抱く。
一人ひとりが主体的に活動できるよう、配慮した声かけを行うことを大切にする。
- 成長した幼児・児童の姿
メダカとアカヒシの共存について、新たな知識を共有した。
少人数で話し合い、小さな水槽を増やしていく中で、様々な生き物や自然に親しみをもちつようになった。
買い物体験を通じて、地域への関心が深まり、社会のマナーを身につけた。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

- 生き物と親しめるように工夫したことや新たな気づきをテーマに話し合い記録を元に子どもたちの関心や発見、表現を振り返る。
- 次の探求活動の更なる充実に向け、新たな問いや環境の構成を考える。
- 子ども同士の対話や関わりを促す。

R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) ばら会議を通して

園・校名

高階保育園

○	幼児期の教育 (5歳4月～)
○	接続期①:アプローチ (5歳10月～)
	接続期②:スタート (第1学年1学期)
	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

・ 概要

“ばら会議”という話し合いの時間を通して、互いの考えや思いを伝え合う経験を積む。ばら会議では、一日の活動や行事の内容、季節の行事に向けた制作の内容・作り方などを、子ども同士で話し合って決める。

・ 教師・保育士の具体的な働きかけ

◎春～夏ごろは、選択肢や決め方を提示し、“自分たちで話し合って決めることができた”という経験を積んだ。秋以降は、話し合いのテーマを投げかけ、子ども同士で意見を出し合いながら、考えをまとめるまで、必要以上の声掛けはせずに見守った。

◎話し合いの時間が、子どもにとって負担にならないよう、楽しい雰囲気づくりを意識した。

・ 働きかけのねらい

◎互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したりする。

◎自分の考えや思いを整理し、相手に言葉で伝える経験をする。

◎他者の考えや思いに耳を傾ける。

・ 成長した幼児・児童の姿

◎自分の思いを、落ち着いて言葉で伝えられることが増えた。

◎“自分がこうしたい”だけではなく、“他者のためにはどうしたらいいか”“こうすれば他者が喜ぶのではないか”という視点で、考える姿が見られるようになった。

◎“自分たちで決めた”という自信を持って、様々な活動に主体的に取り組んでいる。

◎自分たちで決めたことが、実現する充実感を味わっている。

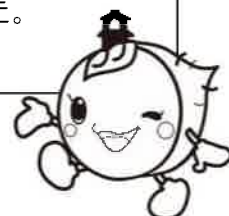
※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

【意義】考えを伝え合う中で、他者と自分の共通点や違いに気づき、理解しようとしている。

【課題】「どっちでもいい」など自分の考えを表現することに消極的な子の思いを引き出したり、考えを伝えるのが得意な子の意見に偏らないように配慮することに難しさを感じた。



R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～
(実践名) お店屋さんごっこ

園・校名
さくらんぼ保育園

☐	幼児期の教育 (5歳4月～)
☐	接続期①: アプローチ (5歳10月～)
	接続期②: スタート (第1学年1学期)
	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

- 概要
 - ・3歳以上児クラスで行う「お店屋さんごっこ」に向け、クラスで決めたお店のテーマに沿った品物作りをする。
- 教師・保育士の具体的な働きかけ
 - ・友だちの前で自らの考えを発表する機会を設け、保育士が共感することで安心して伝えられる雰囲気を作る。
 - ・1人1人の得手不得手を見極めながらさりげなくグループ分けや援助することで友だち同士、作業を進められるようにする。
- 働きかけのねらい
 - ・誰もが自分なりのやりがいや達成感を味わい、行事に期待が持てるようにする。
 - ・友だち同士で伝え合うことの必要性を感じられるようにする。
- 成長した幼児・児童の姿
 - ・友だちの困っている姿に気づき手助けしたり、自らのできることを考えたりしながら作業を進め、協力し合いながら品物を作ることを楽しんでいた。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

意義: お店の内容、品物、製作(素材)、当番の役割を友だちや保育士との関わりの中で楽しめながら、
年長として自己解決や決りごとに向くことが出来るため意義として大きい。

課題: 品物を作る際、はさみや製作が苦手な子もいて、苦手意識の改善と指先運動の発達の促し
達成感が増える工夫が必要。



R6幼保小実践事例集：「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) モンテッソーリ教育

園・校名

音羽の森 保育園

☐	幼児期の教育 (5歳4月～)
	接続期①：アプローチ (5歳10月～)
	接続期②：スタート (第1学年1学期)
	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

・ 概要

- ・ 月に2回モンテッソーリの時間を設けている。
- ・ 子どもが自分で考え、判断し行動できるような活動内容と提供
- ・ 色、数量、形を覚えたり等記憶力を育てる絵カードやワイドシート。
- ・ 教師・保育士の具体的な働きかけ
- ・ 子どもが仕事(活動)をしようとして様々な教具を散置しておく。
- ・ 静かな環境、集中に取り組めるスペースを提供する。
- ・ 個々に合わせた課題を提供する。

・ 働きかけのねらい

- ・ やりたい物を自分で選び自由に取り出して仕事(活動)が出来るように元の場所に戻すように出来る。
- ・ 仕事(活動)に集中に取り組めるようになる。
- ・ 自分で考え、判断し行動出来る力、思考力を育てる。

・ 成長した幼児・児童の姿

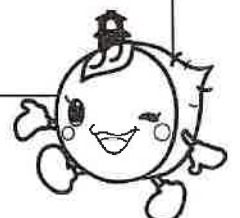
- ・ 思考力が身に付いて、自分で判断し行動し、発言することが増えた。
- ・ 1つのことに集中し諦めずに最後まで取り組む姿勢が見られる。
- ・ 教具の貸し借りが上手に行うことが出来る。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。)

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

モンテッソーリの活動の中で集中に取り組む力、自分で考え判断して行動出来る力が付いた。
中には自分で行動したり、発言出来るようになったり、諦めずに最後までやることを
目標にいろいろな活動に合わせた課題提供が必要だと感じている。



R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) 思いやりの心を育てよう!!

まーぶるきらり保育園

【活動内容】

- 概要
 - 幼児組が同じフロアで活動を行ったり、乳児組と一緒に散歩に行ったりする等、様々な年齢の友達との関わり。
 - 近隣のスーパーマーケットに買い物に行く等、地域の人との関わり。
- 教師・保育士の具体的な働きかけ
 - 一緒に散歩に行ったり活動を共にする中で、他クラスの子とペアになり、5歳児がリードしたり困っている時には助けてあげられるよう伝える。
 - 地域の方との交流をする機会をつくる。
 - 公共の場での過ごし方を伝えたり、子どもたちと一緒に考えたりする。
- 働きかけのねらい
 - 自分のことだけではなく周りの様子を気にかけたり、様々な年齢の友達と関わったりする中で思いやりの心を育てる。
 - 保育園の周りにはどのようなお店や人がいるのかを知り、関わりを通して社会性を身につける。
- 成長した幼児・児童の姿
 - 乳児組の散歩の準備を進んで行ったり、優しく声をかけたりしてあげられるようになった。
 - 散歩の際、道路側を歩く、階段ではペアになった子に合わせて昇り降りをするようになった。
 - 地域の方と交流を取る中で、挨拶をしたり、顔を覚えたりして関わりを持つようになった。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

- 積極的に違う年齢の友達と関わるようになり、思いやりの心が育ってきていると感じる。
- 他者との関わりで小学生との交流の機会がないため、実際に小学校へ見学に行かせてもらうなどして小学生と関わり、就学への期待を持てるようにする。



R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) 人と人とのつながりを大切にしよう

生活科「たのしいあきいっぱい

～いっしょにあそぼう～」の活動を通して



園・校名 川越市立高階南小学校

【活動内容】

・ 概要

- ①生活科の「たのしいあきいっぱい」で、校内や地域で拾ってきた落ち葉や木の実などを利用して秋のおもちゃを製作した。
- ②おもちゃ作りで、作業で難しいものについて、授業参観で保護者にお手伝いをお願いし、児童と一緒に作成した。
- ③「あきのおもちゃ大会」をひらき、学年間でお互いが作製したおもちゃを体験し合った。
- ④「あきのおもちゃ大会」に学区内の保育園児を招待し、上級生としての態度で園児に接する機会を設けた。



・ 教師・保育士の具体的な働きかけ

- ①校内で児童と一緒に秋探しをして回り、「見つけたよカード」に活動の様子を記入したり、実物（落ち葉や木の実）を貼り付けたりした。
- ②お家の方々と活動を通して、感謝の気持ちを持てるように声かけした。
- ③お互いのクラスのおもちゃについて、お店スタンプカードを利用し、できるだけ多くのブースを体験したくなるようにした。
- ④自分たちよりも小さな保育園児が来ることを伝え、学級会の話合いで「どんなことをしたいか」「迎えるにあたっての工夫」を話し合った。



・ 働きかけのねらい

- ①秋の自然の変化や良さを知る。また、地域の公園等で秋見つけをする際のマナーやルールを徹底させるためのプレ活動的な位置づけ。
- ②同じクラスになった児童同士のつながりや成長について、保護者にも理解してもらい、児童と保護者一体となって今後の生活や活動に生かす。
- ③「秋のおもちゃ大会」という行事を通じて互いを認め合い、学年としての意識を高める。
- ④自分がやりたいことだけに視点を置くのではなく、より相手の気持ちを考えた活動に視点を置くべきであることを意識させる。

・ 成長した幼児・児童の姿

- ①校内や地域でルールを守り、継続的、自主的に「秋あつめ」をしている姿が見られた。
- ②自分の父母だけでなく、おもちゃ作りに関わった保護者の名前を出し、製作時を振り返って感謝している姿が見られた。
- ③お互いのクラスのおもちゃ作りやお店の対応について、それぞれの工夫や違いに気づき、称賛の声が聞かれたり、よい点を取り入れたりしていた。
- ④同じクラスの友達が相手だとゲームの勝敗がつかないと言っていた子どもたちも、「小さい子が相手の時はどうしたらいい？」と考えさせると手加減してあげる？」「ヒントを言ってあげる？」「負けてあげようかな。」など、自分だけが楽しむのではなく、楽しませてあげる側としての態度を考え、実践していた。



健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義〇と課題●

- 〇コロナ禍で途絶えていた地域の保育園との関わりを復活させた。1年生は校内で一番下の学年として「やってもらう」立場のことが多いが、より小さな年齢の子どもたちを意識させることで、同級生には我が儘を通してしまいがちな児童も、園児に非常に丁寧な対応を心掛けていた。この活動を機に、再び学校にやってきていた園児たちへ手を振って呼び掛けたり、園児たちも「あの時のお兄さんたちだ！」と近くに寄ってきたりと、当初よそよそしかった態度に変化が見られた。
- 働き方改革が叫ばれる中、幼稚園や保育園との連携を密にしながら、活動をより簡潔に、継続できる形を模索していきたい。

R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) 生活科「あきまつり」

園・校名

高階小学校

【活動内容】

・概要

生活科「たのしいあきいっぱい」で秋探しをし、小単元『あきのおもちゃをつくろう』で、見つけたものや身近な材料を使って、おもちゃづくりをした。さらに、つくったおもちゃのお店屋さんをグループで開き、学年全体でお店屋さん・お客さんになり、互いに行き来しておもちゃで遊んで楽しむ「あきまつり」を実施した。

○教師・保育士の具体的な働きかけ

- ・秋のイメージをクラス全体で話し合い、校庭で見つけられる「あき」を探した。
- ・見つけたもので何かできそう、という児童の発想から、おもちゃづくりをしようという活動に結びつけた。
- ・おもちゃの作り方を教科書で確認した後、児童同士でも教え合い、遊び方の工夫や改良などもアドバイスし合う姿を称賛し、クラス全体に広げた。
- ・お店屋さんのグループ作り、店番前半・後半の役割分担の話し合いを指導した。
- ・「あきまつり」実行委員を各クラス男女1名ずつ出し、始めの会・終わりの会を進めた。

○働きかけのねらい

- ・児童に季節感、自然への親しみを深めさせ、味わわせる中で、自分で何か作りたい、友達と一緒に遊びたい、楽しみたい、関わりたいという気持ちを持たせる。
- ・グループでお店屋さんに必要な準備を話し合わせることで、友達と協力して活動する経験を積ませる。
- ・11月の本校の「いじめ撲滅月間」に合わせ、テーマを「ありがとうをたくさんいえるあきまつりにしよう」として活動し、ありがとうを言い合う心地よさも感じさせた。

○成長した幼児・児童の姿

- ・お店屋さんの準備には、意見の食い違いや、思い通りにいかないことも多々出てきたが、話し合ったり、譲り合ったりしながら活動を進めることができた。
- ・おまつり当日は、他のクラスのお店屋さんに行き遊び、ありがとうをたくさん言ったり、自分のクラスになかったおもちゃの工夫を見たりして報告するなどの姿が見られた。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

健康な心と体	自立心	○協同性	○道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
○思考力の芽生え	○自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	○言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

秋のおもちゃを作って遊ぶという、児童が好む活動を通して、考えたり他者と交流したりするなど言語活動をたくさんできたことが成果としてあげられる。おもちゃを作ったりお店の準備をしている様子はとても楽しそうで、事後の振り返りでは、他クラスのお店の良さを発表する姿も多く、意味のある学習になった。今後も児童の興味・感心を引き出しながら、できる活動を工夫していきたい。

R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) 図工造形遊び「カラフル いろみず」

園・校名 寺尾小学校

幼児期の教育
(5歳4月～)

接続期①: アプローチ
(5歳10月～)

接続期②: スタート
(第1学年1学期)

○ 小学校教育
(第1学年2学期～)

【活動内容】

・ 概要

- ✧ ペットボトルに絵の具と水を入れ、オリジナルの色水を作る。
- ✧ 作った色水に名前を付けて紹介したり、友達の色水を見て、何色の絵の具を使ったか予想をしたりする。
- ✧ 友達と話し合いながら、グループやクラスみんなで色水を並べる。

・ 教師・保育士の具体的な働きかけ

児童の活動に対して、「何色を混ぜたの?」「どんな名前を付ける?」と問いかけたり、「二人の色は似ているけど、ちょっと違うね。どこが違うのだろう」と、友達の色水と見比べることを促したりした。

・ 働きかけのねらい

- ✧ 思考を促し、色をもとにイメージを持ったり、言葉による表現に繋げたりしてほしい。
- ✧ 自分の色水に愛着を持ち、友達に紹介したいという意欲を高めたい。
- ✧ 友達の色水に興味を持ち、表現の違いや、友達との活動を楽しんでほしい。

・ 成長した幼児・児童の姿

これまでは学級会を除き、大人数で協議し何かを決める機会がなかったが、最後の色水を並べる活動では、濃淡や明暗の違いをよく観察し、積極的に交流しながら並び順を決めていた。主張の違いでぶつかるグループもあったが、一列ではなく放射状にならべたり、比べやすいように日向に場所を移動したりと、新たな方法を生み出していた。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

決まったテーマの絵を描く、はさみを使いこなして作品を作るといった活動は、1年生の時点ですでに周りと比べて苦手意識を持つ子がいる。また保護者にも、「そういうのをやらせてこなかったの」と焦る姿が見られる。しかし、活動を楽しむことや試行錯誤の過程を重視する造形遊びでは、友達との表現の差も「いろいろな表現・やり方があっておもしろい」ととらえている姿が見られるので、友達と活動することへの意欲につながっていると感じる。

一方、図工として技能的な指導をすることで、本人の自信につながることも大いにある。また、評価の観点で言えば、造形遊びの単元は評価をしづらいので、年間でどのように取り入れていくのかというバランスが難しい。

R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) ほっこりタイム (スタートカリキュラム)

園・校名 川越市立福原小学校

	幼児期の教育 (5歳4月～)
	接続期①: アプローチ (5歳10月～)
○	接続期②: スタート (第1学年1学期)
	小学校教育 (第1学年2学期～)

【活動内容】

・ 概要

福原小学校では、スタートカリキュラムにおいて、児童が段階的に小学校の学習へ移行できるように、「ほっこりタイム」「わくわくタイム」「ぐんぐんタイム」の3つの時間を設定している。「ほっこりタイム」は、安心感をもって新しい人間関係を築いていくための時間と位置づけて、ゆったりとした時間設定で小学校生活をスタートできるようにした。

・ 教師・保育士の具体的な働きかけ

- ・自分のペースで朝の支度をし、終わったら自由遊びをしてよいことを児童に伝えた。
- ・教室内に、塗り絵、折り紙、画用紙、粘土、絵本や図鑑、けん玉、お手玉、コマ等を用意し、自由に遊べる環境を整えた。
- ・全員の支度が終わったところを見計らって、各クラスに配置した副担任が読み聞かせを行った。

・ 働きかけのねらい

自分の力で支度をし、自信をもって小学校生活をスタートさせたいと考えた。また、幼稚園や保育園と同じような遊びを用意することで、指示を待つのではなく自分で遊びを決め、安心して意欲的な小学校生活を送ってほしいと考えた。

・ 成長した幼児・児童の姿

支度の時間をゆったり設定することで、教師に頼ることなく、焦らずに自分で支度をすることができた。また、小学校は新しい場所ではあるが、今まで幼稚園や保育園でやってきたことと大差がないことがわかり、安心して笑顔で生活していた。遊びを通して、別の園からきた友達とも自然に会話が生まれ、譲り合ったり、一緒に仲良く活動したりする姿も見られた。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

- ・ 意義 幼保での経験を生かし、安心して小学校生活をスタートできる。
- ・ 課題 学校全体での協力体制が不可欠で、全職員のスタート期への理解と人手の確保が必要。

R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～
(実践名) 児童の気づきを高める生活科の授業実践

校名 川越市立高階西小学校

【活動内容】

○概要

- ・季節の変化に気がつき、木の実や葉を使って楽しい遊びを考える。
- ・秋の素材を使っておもちゃを作る。試行錯誤してよりよいものを作る。
- ・おもちゃ製作後、ゲーム性のある遊びになるように遊び方(ルール)を考える。
- ・自分勝手にルールを決めるのではなく、話し合いによってルールを決定していく。

○教師具体的な働きかけ

場面	働きかけ
見つけた秋の素材について発表	・発表の仕方、友達の発表を聞く態度の指導 ・うなずきや、質問など、話をうまくつなげるようにする仕方についての指導。
秋の素材でおもちゃをつくる	・試行錯誤している場面は、じっくり見守る。 ・出来ないことについて友達同士で助け合えるように促す。 ・よりよいおもちゃになるように、同じおもちゃをつくる児童同士のグループを形成する。
お店を開く	・お客と店員に分かれておもちゃの店を開くことでどちらの立場も経験できるようにする。

○働きかけのねらい

- ・どんなおもちゃを作るのか計画書を作る。
→教科書を見て、どのように作るのかを調べる時間をとるようにする。
→計画書を確認する。整合性が取れない場合でも実際に試してみる。
- ・実際に作る場面では、子供たちが試行錯誤しながら作るようにして見守る。
- ・遊ぶ場面では、どのように遊んだらみんなが楽しいのか、ゲーム性があるものなのか視点を与えて考えさせる。

○成長した幼児・児童の姿

- ・自分の意見ばかりを通そうとするのではなく、友達の意見も聞き、よりよいものを選ぼうとする児童が増えた。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。)

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

【意義】教え込みではなく、与えられた課題に対して主体的に取り組むことができたことできた。

【課題】試行錯誤しながら別のおもちゃができてしまう児童がいたので、与えられた課題からそれないようにしていきたい。

R6幼保小実践事例集:「他者との関わり」に結び付いた実践例

園・校での活動時期
(○をつける、複数可)

～研究主題に基づく実践～

(実践名) 図画工作「スルスル ビューン」

園・校名 川越市立高階北小学校

【活動内容】

・ 概要

1学期に取り組んだ「ねんどで ごちそう なに つくろう」では、自分のイメージを膨らませて好きな食べ物を進んで作り、お互いの作品を楽しみにしている姿も見られる。

しかし中にはイメージがつかず、何もできずに固まってしまう児童が見られた。そのため必要に応じて見本を見せたり、対話することで児童の考えを引き出したりする支援を大切にしている。本題を通して、試したり考えたりしながら自分の思いを表現し、友達と一緒に楽しむことができる児童を育てたい。

・ 教師の具体的な働きかけ

- ① 学び合いを促すためにグループで制作活動をする。
- ② 試す場所を設け、いつでも何度でも使っていていいことを知らせる。
- ③ アイデアが出ないときは、個別に声掛けを行ったり、背景を映し出したモニターを使ったりながら連想していけるようにする。

・ 働きかけのねらい

- ① お互いに話し合ったり、見合ったりすることができるようにする。
- ② 自由に試したり、お互いの作品を見ながら工夫ができるようにする。
- ③ 自分が表したいもののイメージが付き、表現することができるようにする。

・ 成長した児童の姿

お試して見本を滑らせる遊びをしている時点で、「○○を作りたい！」という声がたくさん出てきてほとんどの児童が、自分の材料の形から連想した滑るおもちゃを作ることができた。自由に試す場所を設けることによって、滑らせることを楽しむ児童がいれば試しながら工夫を重ねたり、お互いに良さやアドバイスをし合う場面が見られた。モニターで映し出すことによって自分自身でイメージをもつことができた。

※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（見られた姿・関連がある姿に○をつけてください。）

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

指導者から見た実践の意義と課題

○表したいものを表すために、たくさん試す・工夫するという試行錯誤の時間を設けた事。児童が熱中する時間となった。

△持ってきてもらう材料に差がある。学校で資材を集めたり、みんなが平等に使える資材があるとよい。



